平成９年度
自然・人・地域に学ぶ

―南但馬自然学校プログラム研究委員会のまとめ―

兵庫県立
南但馬自然学校
HYŌGO KENRITU MINAMI TAJIMA SHIZEN GAKKŌ

はじめに

兵庫県教育委員会では、平成９年度の指導の重点として「子どもたちがゆとりのある生活の中で、地域での遊びや自然体験・社会体験の様々な活動を通して人間としての生き方や豊かな感性を育(はぐく)んでいけるよう、学校・家庭・地域社会がそれぞれの役割を担うとともに、相互の連携を深める必要がある」ことを強調しています。これは、とりもなおさず、兵庫県における自然学校のめざすところであります。その自然学校も、昭和63年度の開始以来すでに10年を経過し、これまでに参加した児童・生徒は50万人を超えております。県教育委員会では10周年を記念して、提唱者の貝原俊民知事を囲んでの紙上フォーラムを開催し、また、これまでの歩みと今後の課題を検討した、まとめの冊子を編集しております。教育の成果は一朝一夕にあらわれるものではありませんが、私たちは、21世紀を担う世代に大きい影響を及ぼしていると自負しており、さらに、自然学校に寄せられている県民の期待に応えるべく、努力を重ねるつもりでおります。

自然学校の開始当初には、実施するプログラムについても若干の戸惑いがあったと聞いておりますが、次第に検討が重ねられ、とくに平成６年に自然学校中核施設としての県立南但馬自然学校が開校して後は、そこに設置されました「プログラム研究委員会」を中心に、いろいろな立場からの議論が集約されてきております。毎年発行しているこの「自然・人・地域に学ぶ」は、その研究委員会での研究成果であります。今年度はテーマとして「感動」を取り上げました。「感動」は個人、個人の心の働きであり、同じ情景にあっても、個人のそれまでの成長の過程の違いやその時の感情のありようにもよって、受けとめ方に差があるのは当然であります。それをプログラムとして一様に展開するのは、あるいはナンセンスなことかもしれません。そのような批判が出るのを承知のうえで、事例研究としてあえてこのテーマをとりあげました。これには、瑞々しい子どもの心に一生残りうる自然学校の思い出をつくりたいという、私たちの願いもこめられています。実施にあたる各学校では、校区、児童・生徒の実情や自然学校に対するそれぞれのねらいに合わせ、子どもたちの思い出になるような喜びを分かち合えるような、独自のプログラムを組立てていただきたいと思います。

終わりになりましたが、プログラムの開発・研究にご意見やご指導を賜り、さらに本報告書の執筆のご尽力いただきました、プログラム研究委員会の委員の諸先生に厚くお礼を申しあげます。また、いろいろとご支援、ご協力をいただきました県教育委員会義務教育課に対しても、深い感謝の念を表しておきます。

平成10年３月

兵庫県立南但馬自然学校
校長　朝日　稔

もくじ

○ はじめに
Ⅰ 兵庫の自然学校
1 自然学校成立の背景 ……1
2 自然学校の現状 ……1
3 自然学校のねらい ……2
4 「自然、人、地域」とのふれあい活動内容例 ……3
Ⅱ 開発した活動例
○ 本年度の取り組み ……5
○ 活用にあたって ……6
1 自然に対しての感動
(1) ナイトハイク ……8
(2) 日の出ハイク ……10
(3) クモ博士になろう！ ……12
(4) 森で遊ぼう ……14
(5) 粘土づくり！ ……16
(6) 潮だまりで遊ぶ ……18
(7) 見直そう！自然から作るエネルギー ……20
(8) きのこ探検隊 ……22
(9) 手作りフィッシング ……24
(10) 川の探検隊 ……26
2 成就感、達成感、満足感の感動
(1) じまんの料理をつくろう ……30
(2) 地域探検をしよう ……32
(3) めざせ頂上 ……34
(4) 夜行性動物になろう ……36
(5) 作ろう！飛ばそう！竹とんぼ ……38
(6) 友達と大冒険だ！ ……40
(7) シェルターづくり ……42
(8) うさぎのもちつき ……44
(9) 生き物の残したあと見い～つけた！ ……46
(10) この一週間こんなことがあったね！ ……48
3 人に対しての感動
(1) 遠くへ行きたい ……52
(2) 名人追跡 ……54
(3) お年寄りを訪ねて ……56
(4) 私たちの手で次の世代へ ……58
(5) 伝承遊びに挑戦 ……60
(6) 同じ釜の飯 ……62
(7) 聖なる火を囲んで ……64
(8) 歌は友達 ……66
Ⅲ 5泊6日のプログラム作成について ……68
感動に視点をあてた5泊6日のプログラム例 ……69
Ⅳ 自然学校の円滑な実施のために ……74
※「参考資料」
自然学校に活用されている主な宿泊施設 ……76
自然学校で活用されている主な県立施設 ……77
平成9年度自然学校推進事業補助金交付要綱 ……78

Ⅰ　兵庫の自然学校

1　自然学校成立の背景

兵庫県では、21世紀を「調和ある共生の世紀」とするため、「こころ豊かな人づくり」を重要施策の一つとしてかかげ、さまざまな施策を実施している。この施策の推進にあたり、教育専門家や各界の有識者25名による「こころ豊かな人づくり懇話会」が昭和62年度に設置され、広く県民が参加する「こころ豊かな人づくり全県フォーラム」が開催された。その中で、物質的な豊かさと便利で快適な生活を享受できるようになった現代社会にあって、知育優先、学歴偏重の風潮を手伝い、子どもたちが人工的なものに心を奪われ、人間としての基本を教える自然との関わりや直接体験の機会が著しく減少していることに危機感を抱き、「児童生徒の自然とのふれあい、家族や友達、地域の人々との心のふれあいが、人間形成に大きな意義がある」という基本的な考え方が提起された。

幸い兵庫県は、山、海、川等変化に富んだ自然環境に恵まれており、この自然環境の中でさまざまな体験活動を行い、協力性や連帯感などの仲間意識を育み、深める機会を実現する意義は大きい。

こうした提言を受けて兵庫県教育委員会では、「明日を担うこころ豊かな人づくり」を推進するため、公立小学校５年生全員を対象に、５泊６日の期間、学習の場を教室から豊かな自然の中に移す「自然学校推進事業」を実施してきた。また、中学校においては、平成２年度、３年度の２年間の試行実施を経て、平成４年度からは希望する学校が実施している。

昭和63年度からの実施状況は、次の通りである。

（単位　校）

年　度		昭和63年度	平成元年度	２年度	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度	８年度	９年度
実施校	小学校	113	321	535	787	836	841	824	839	836	832
	中学校	—	—	6	7	18	29	30	31	34	27
	合　計	113	321	541	794	854	870	854	870	870	859

※小学校は、平成３年度から全校を対象に実施
※平成６年度は、兵庫県南部地震の影響を受け、小学校12校、中学校４校が中止

2　自然学校の現状

この自然学校は、子どもが自然、人、地域社会とのふれあいの中で、思いやりの心やたくましい生命力を培い、学校生活では得られない体験を通して学習することをめざしている。試行実施を重ね、今では関係者の努力によって、全小学校と希望する中学校で実施されるようになった。自然学校の実施以来、自然にふれ、友達や先生、さらには地域の人々とのふれあいを通して、自立する心、人を思いやる豊かな心が培われ、皆と力を合わせてなしとげた時の満足感が味わえ、さまざまな体験活動が実施できたと児童生徒・保護者・学校関係者から多くの成果が報告されている。

さらに、平成６年５月に自然学校の受入れ専用施設として県立南但馬自然学校が、山東町の広大な自然の中に開校された。

ここでは、自然学校としての場の提供はもちろん、自然学校で学習する先導的なプログラム開発、調査研究、自然学校指導者養成としての各種研修及び県下各地の自然学校に関する情報の提供など自然学校の中核的な役割を果たしている。開校以来278校が利用しており、自然学校専用施設とし

ての利点を生かして、ゆとりある活動を展開している。

平成６年度以降、南但馬自然学校プログラム研究委員会のまとめとして、冊子「自然・人・地域に学ぶ」を作成し、各学校に配布して、「ゆとりある活動」を中心に、数々の先導的なプログラムを紹介してきた。各学校においては、この冊子を基にして、子どもの側に立った独自のプログラムを工夫したり、テーマを設定し、各活動内容に一貫性をもたせたりしている。

本年度、自然学校10周年を迎えた。県教育委員会では、これまでの自然学校の成果と課題をまとめ、今後の方策を検討するため、「自然学校推進事業検討委員会」を開催し、自然学校の一層の充実を図っていくこととしている。

3　自然学校のねらい

自然学校は、学習の場を教室から豊かな自然の中へ移し、子どもたちが人とのふれあいや自然とのふれあい、地域社会への理解を深めるなど、さまざまな活動を年間指導計画に位置づけ実施することにより、心身ともに調和のとれた健全な子どもたちの育成を目的としている。

豊かな自然を利用し、教科という枠を超えて行う合科的あるいは総合的な学習が期待されている。「豊かな自然」という言葉には二つの意味がある。その一つは、自然が豊富で、変化に富み、その偉大さや恩恵や厳しさにふれることができる場所としての豊かさであり、二つ目は、５泊６日の期間による自然とのふれあいの時間としての豊かさである。ゆとりある期間の中で思いっきり自然にひたることが大切である。

このゆとりの中で実施される自然学校のねらいは、次の三つに要約される。

ア　自然とのふれあいや地域社会への理解を通じて、学校では得がたい体験学習をする。

・　学校や日常生活ではできないような学習を展開し、その後の学習に生かす。
・　五体と五感を使ってさまざまな体験活動を行い、体験の幅を広げる。
・　自然環境によくふれあうことによって、自然に対する興味や関心を育て、学習意欲を高める。

イ　集団宿泊生活を通じて、人間的なふれあいを強め、お互いの信頼関係を深める。

・　家庭を離れた生活を通して、自立・自律の精神や自主性等を養う。
・　生活全般にわたる共同生活を通じて、他を思いやるやさしさや協力する心、友達同士の連帯感を養う。
・　仕事の分担を通して、自分の役割と責任の大切さを学ぶ。

ウ　自然の中での活発な活動を通じて、健康増進を図る。

・　自然の中で活発に活動することによって、身体の諸機能を発達させ体力を養う。
・　健康や安全確保に心がける注意力や関心を育てる。
・　規則正しい生活を通じて、健やかな体と豊かな心を育てる。

これらのねらいは、各学校の教育目標や実状と関連づけて具体化され、年間指導計画に位置づけ実施されることが必要である。

また、これらのねらいを実現させるためには、これまでの野外活動にとどまらず、自然、人、地域そのものを教材とした具体的で総合的な学習を進めることが望まれる。

特に、中学校においては、これらのことに加えて、精神的に自立しつつある生徒が、教師や友達相互の人格的な交流を深める工夫が必要となる。

活動方法においても、生徒の自主的、主体的な活動を中心とした、生徒の運営による自然学校とするなど、小学校での自然学校の体験を十分に活かしたものとなることが望まれる。

4 「自然、人、地域」とのふれあい活動内容例（小学校）

- 自然学校
  - 自然とのふれあい
    - 自然に学ぶ
      - ◎植物や昆虫の観察　◎太陽や星の観察
      - ◎バードウォッチング　◎ミクロの世界の観察
      - ◎水中生物と水質調査
    - 自然から創る
      - ◎竹の食器づくり
      - ◎おもちゃの手づくりや草笛遊び
      - ◎巣箱づくり　◎火おこし
      - ◎葉脈しおり　◎木の枝細工
    - 自然に親しむ
      - ◎山菜採り　◎自然散策
      - ◎川遊び（水遊び）　◎アドベンチャーゲーム
      - ◎自然観察ゲーム
    - 自然を守る
      - ◎枝打ち　◎川の水質調査
      - ◎牛乳パックのはがきづくり
      - ◎生態マップづくり
  - 人とのふれあい
    - 人に学ぶ
      - ◎グループ活動　◎係、当番活動
      - ◎家族への手紙　◎自然学校学習発表会
      - ◎自然学校絵本（新聞）づくり
    - 共に生きる
      - ◎友達や先生との共同生活　◎清掃活動
      - ◎スタンツ練習　◎野外炊はん
      - ◎自然学校ファイヤー　◎ゲートボール交流
      - ◎お年寄りへのはがき　◎テント泊
      - ◎課題解決ゲーム　◎保育所の子と遊ぶ
  - 地域とのふれあい
    - 地域に学ぶ
      - ◎民話　◎方言調べ　◎地域産業の体験
      - ◎史跡めぐり　◎郷土芸能体験
      - ◎民家訪問　◎福祉施設訪問
    - 地域に親しむ
      - ◎地元を巡るウォークラリー
      - ◎郷土の昔の遊び　◎地域カルタの大会
      - ◎地域における買い物体験
      - ◎招待模擬店（地元との交流）
    - 地域に奉仕する
      - ◎花壇づくり　◎草木のプレートかけ
      - ◎施設内植樹活動　◎施設内及び周辺の草取り
      - ◎川や施設周辺の清掃活動

→ さまざまな体験を通して自主性・自立心・連帯感の育成

「自然、人、地域」とのふれあい活動内容例（中学校）

自然学校

- **自然とのふれあい**
  - **自然に学ぶ**
    - ◎植物や昆虫の観察　◎太陽や星の観察
    - ◎バードウォッチング　◎ミクロの世界の観察
    - ◎水中生物と水質調査
  - **自然から創る**
    - ◎竹の細工　◎紙づくり
    - ◎火おこし　◎巣箱づくり
    - ◎ハンモックづくり　◎木の枝細工
  - **自然に親しむ**
    - ◎山菜採り　◎自然散策
    - ◎川ウォッチング　◎アドベンチャーゲーム
    - ◎自然観察ゲーム
  - **自然を守る**
    - ◎枝打ち・下草刈り　◎川の水質調査
    - ◎牛乳パックのはがきづくり　◎大気の汚れ調べ
    - ◎生態マップづくり　◎酸性雨づくり
- **人とのふれあい**
  - **人に学ぶ**
    - ◎グループ活動　◎係、当番活動
    - ◎家族への手紙　◎自然学校学習発表会
    - ◎自然学校新聞づくり
  - **共に生きる**
    - ◎友達や先生との共同生活　◎清掃活動
    - ◎スタンツ練習　◎野外炊はん
    - ◎自然学校ファイヤー　◎ゲートボール交流
    - ◎お年寄りへのはがき　◎テント泊
- **地域とのふれあい**
  - **地域に学ぶ**
    - ◎民話　◎方言調べ　◎地域産業の体験
    - ◎史跡めぐり　◎郷土芸能体験
    - ◎民家訪問　◎福祉施設訪問
    - ◎仕事体験　◎地域のくらし発見
  - **地域に親しむ**
    - ◎地元を巡るウォークラリー
    - ◎マラソンウォーク　◎地域カルタの大会
    - ◎地域における買い物体験　◎わらじウォーク
    - ◎招待模擬店（地元との交流）
  - **地域に奉仕する**
    - ◎花壇づくり　◎草木のプレートかけ
    - ◎施設内植樹活動　◎施設内及び周辺の草取り
    - ◎川や施設周辺の清掃活動
    - ◎地域へのボランティア活動

さまざまな体験を通して自主性・自立心・自律の精神・連帯感の育成

Ⅱ　開発した活動例

○　本年度の取り組み

平成８年７月の第15期中央教育審議会第一次答申において「ゆとり」ある教育環境の中で「生きる力」を育むことの重要性が指摘された。

また、兵庫県は先の大震災で、生と死の重み・尊厳、自然への畏敬の念、思いやりや助け合いの心と行動など、「生きる力」を育むことの大切さを痛感したところであり、兵庫県教育委員会が設置した「子どもたちに生きる力を育む教育懇話会」が、平成８年８月に発刊した「子どもたちに生きる力を育む」のまとめの中でも、「感動が生きる力の基になる」ことや、「生きる目標をもたせその目標の達成のためにさまざまな体験活動が必要である」こと等が提言された。

それをうけて、本年度は生きる力の基になる「感動」を子どもたちにより得させるためには、活動をどのように設定し、それをどう展開すればよいかという点について研究し開発することとした。

そこで、平成８年度に当校が調査研究した「自然学校で感動したこと」のアンケートの感動の内容の中から、「自然の風景等自然の美しさや雄大さからの感動」「初めてした体験や最後までがんばった体験からの感動」「仲間との助け合いや人とのふれあいからの感動」の３点を取り上げて、活動開発をした。なお、活動を開発する際の感動の内容と作成する際の考え方は以下のとおりである。

感　動　の　内　容	作成する際の考え方
自然の風景等自然の美しさや雄大さからの感動 →自然に対しての感動	・　意外性 ・　本物 ・　達成感 ・　新発見 ・　自己表現 ・　共有 ・　自己開発
初めてした体験や最後までがんばった体験からの感動 →成就感、達成感、満足感の感動	
仲間との助け合いなど人とのふれあいからの感動 →人に対しての感動	

ただ、留意しなければならないことは、感動は極めて個人的、主観的であり、個々の感受性によって受け取る度合いや感動の内容が異なるものであり、また、一つの活動の中にも複数の感動が内在する。したがって、活動例の中の「こんな感動を…」に記してあるものだけでなく、指導者のねらいや子どもたちの実態により様々な感動があるということである。

また、より感動ある体験となるためには、子どもたちに企画段階から参画させたり、自主的な運営や活動の場を設けたりすることが大切である。

○　活用にあたって

児童生徒がより感動するためには、活動を、どういう状況・条件で実施し、また、指導者は、どういう観点で指導すればいいかという点に焦点をあてて作成している。

以下、開発した活動例の見方及び活用の仕方について説明する。

活動名（サブタイトル）

活動の絵

・一言コメント

こんな感動を…

こんな場面で…
1　場所は？
2　季節・時刻は？
3　活動時間は？
4　活動形態は？
5　準備するものは？
6　その他

・　意欲を高めたり興味・関心を寄せる名前としている。

・　わかりやすいサブタイトル（子どもにわかる課題）を提示することでねらいをわからせる。

・　絵によって活動をイメージさせ、子どもたちに興味・関心を持たせる。

・　興味・関心を喚起させる言葉を入れている。

・　この活動でねらう感動が明記してある。指導者は子どもたちに味わわせたい感動をしっかり持つことが大切である。

・　より感動が深まる条件を提示している。実地踏査を行い、実施場所や時刻等条件を設定することが大切である。

※実際の活動

展開

実際の活動

指導上の留意点

・こんなことも…

・　活動の展開例を提示している。実施校の児童生徒の実態によって展開を工夫することが大切である。

・　子どもの心をゆり動かし、より感動を深める働きかけのポイントを示してある。

・　指導者の指導によって効果が…。

・　この活動の他にできる類似の活動例を提示している。

ここに示している活動はあくまでも例であり、このまま実施することもよいが、まず指導者自身がさまざまな感動体験を通してしなやかな感性を磨き、柔軟な発想を持つことで、より感動する活動が展開されると思われる。

1　自然に対しての感動

- ナイトハイク
- 日の出ハイク
- クモ博士になろう！
- 森で遊ぼう
- 粘土づくり！
- 潮だまりで遊ぶ
- 見直そう！自然から作るエネルギー
- きのこ探検隊
- 手作りフィッシング
- 川の探検隊

大　発　見

宝塚市立光明小学校　島　袋　幸　代

自然学校探検。
大発見がいっぱいあった。
テンのふん、
うさぎの足あと、
氷のきのこ
チビきのこ
ビッグきのこなどなど…。
いろいろな物をみつけたよ！

ヘビをおこらせなかったよ

神戸市立南五葉小学校　鞍　掛　卓　司

自然学校が終わってから５日後、
畑へ行くとヘビがいました。
自然学校で学んだことを思い出しました。
じっとヘビをおこらせず、
静かにヘビが通り過ぎるのを待ちました。
もし、あの時、学んだことを忘れていたら、
かまれてたかもしれません。

ナイトハイク

夜の森をハイキング
森からのメッセージを
全身で受け止めよう

夜の森の中でのハイキング。夜の森は、山の生き物たちの生活の場。
彼らに出合えれば「非常に幸運！」。出合いがなくても自然の色・音・匂い・暖かさ・光を感じて、生きてる森を再発見してみよう。

こんな感動を…

- 暗闇の中で自然との一体感を感じ、自然に包まれている自分を感じる。
- 夜の動物や虫、星座の輝きなどから生きているものの「いのち」を感じる。
- 自然の中で一人になり、自分自身や家族、仲間のことを静かに思う。

こんな場面で…

1　場所は？

下草の少ない歩きやすい森、もしくは遊歩道が整備されているならばそこを歩くのもよい。途中に参加者がじっとたたずめる場所があればよい。また、夜空のよく見える場所があるとなおよい。うっそうと繁った森よりも空の見える森の方がよい。

2　季節・時刻は？

寒くてじっとしていられない冬や雨天時等は実施を避ける方がよい。雪の積もった日や満月の夜などは明るくてきれい。

3　活動時間は？

1時間から2時間。歩く時間よりたたずむ時間の方を長くとるようにする。季節により森の中にいる時間を考えて設定する。

4　活動形態は？

1グループの規模は10人から15人程度。1グループに1人指導者が付く。
多人数になると、森の静寂が破られたり参加者により多くの感動を与えるための「動機づけ」がしづらい。また、いくつかのグループが同時に森に入る時は、間隔を開けて活動するとよい。

5　準備するものは？

懐中電燈（指導者用）　ロウソク（人数分）　地面に腰をおろすためのシート（人数分）

実際の活動…

出　発　前

「おしゃべりはなし、きもだめしじゃありません。」等、夜の森に入って静かに自然を体で感じるプログラムであることをはじめに話す。

夜の森の動物の話や夜空に輝く星座の話等をして、静かな気持ちにさせて「動機づけ」をする。
ゆっくりと自分や家族を見つめなおすことを進めてみるのもよい。

出　　発

ろうそく実験

片目を閉じてロウソクの灯をじっと見つめる。暗闇になれた目は、ロウソクの明かりを見つめることによって、すぐその明るさに慣れてしまう。
数分後にロウソクを見ていた目であたりを見渡すと、真っ暗で何も見えない。今まで閉じていた目であたりを見ると、夜の森がよく見える。

ロウソク一本の明るさは、想像以上に森を照らす。また、月明かりもとても明るい。特に満月の夜の月明かりは、幻想的な森の風景を浮かび上がらせる。
ロウソクの扱いには注意する。

森　の　中

一人一人間隔をとって20分間位たたずむ。シートに腰をおろしても、寝ころがっても、木に寄りかかってもよい。感覚を全開にして、感じるまま全てをゆったりとした気持ちで受け止める。

ここでの時間が、一番大切。一人一人自分だけの時間である。自然と一つになれる時間と雰囲気を作ることが大切である。

森の外へ

参加者が全員そろったことを確認する。集合合図にホイッスルを吹くことは控える。全員そろったら森をゆっくり歩いて出る。静かに歩くことで、森の動物に出合うかも…。

この時指導者は、森の生き物との出合いを演出できるとよい。虫の場合は、トラップを仕掛けておくのもよい。
例：地面から出てくる蝉の幼虫　けもの道
　　夜行性の鳥　鳥の巣　昆虫等

振り返り

グループで輪になり、皆で感じたり、気づいたり、考えたことを分かち合う。一人一人の感性を大切にして聞く。

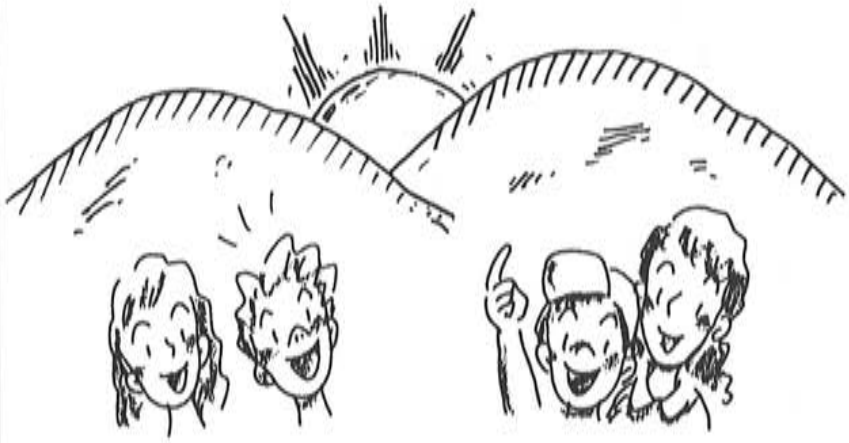
こんなことも…

「浜辺のナイトハイク」

- 夜の浜辺も、自然と一体になるにはもってこいの場所である。満天の星空の下、砂浜に寝ころんで、降るような星を眺めながら宇宙の中にいる自分を感じるのもよい。じっと見つめていると、流れ星が見れるかも…。また足首まで波うち際にひたして、波を感じてみるのもよい。
- 防波堤や磯も絶好の観察ポイントである。安全を確保して夜の海辺の生き物との出合いをさせる。
- 海と空を分ける漁火の灯も幻想的である。潮騒をバックに自分自身を見つめ直すような機会をつくるのもよい。

日の出ハイク

ちょっぴりねむたい
早朝の登山
ひと汗かいた山頂での
日の出ショー見学
暗闇から朝焼けに変わる
日の出の感動を



夜の暗闇の中、星空の下、山頂目指して登山の開始。
東の空が紫紺からじょじょに朱に染まる日の出の素晴らしさを山頂で見てみよう。
明けの明星や西の空に残る星の輝き。朝焼けに染まる雲海が見れれば大感激！

こんな感動を…

- 暗闇の中の登山。皆で励まし合いながら山頂を目指し、登頂の達成感を感じる。
- 夜から朝への移り変わり。日の出の美しさや自然の神秘性、偉大さを感じる。
- 夜空に残る星の輝き、朱に染まる東の空。自然の中で自分を静かに考えてみる。

こんな場面で…

1　場所は？

夜間の登山のため、登山道が整備されていて、山頂まで道に迷わずに比較的安全に登頂できる山。登山口から山頂まであまり時間のかかる山は選ばない方がよい。２時間以内での登頂が理想的。参加者が途中休憩できる場所があればよい。また、山頂に展望台や見晴らしのよい場所があるとよい。

2　季節・時刻は？

気温の低い冬や降雪時、雨天時等は実施を避ける方がよい。比較的天候の安定した季節が望ましい。

3　活動時間は？

４時間から５時間
日の出前30分には山頂に到着しておくようにする。山頂では１時間程いて下山する。

4　活動形態は？

一斉
夜間の登山になるため、参加者の人数により指導者の数を増やし安全を確保する。１クラスに２名程度の指導者が付くことが望ましい。全員登頂できることが大切である。

5　準備するものは？

各自で準備―水筒　タオル　軍手　帽子　懐中電燈
指導者で準備―指導者用無線機　救急バッグ　指導者用懐中電燈

実際の活動…

起　床

前日の夜は、少し早めに寝る。
山頂で日の出が見れるように起床の時間を設定する。

出発前に子どもたちに語りかける。
- 夜明けを迎えるまでの暗闇の世界。
- ほとんどのものが眠りについている時間。
- 「静」から「動」への時間の移り変わりを自分の体で感じる。

出　発

登　山

暗闇での登山。各自足元に注意して山頂を目指す。
まだ森の中の動物は寝ているかもしれない。静かに登頂する。

睡眠不足で途中しんどくなる人もいる。みんなではげまし合いながら山頂を目指す。夜明け前の静けさを感じながら一歩一歩登るのもよい。

山　頂

日の出前に到着する。懐中電灯の灯を消して静かに夜明けを待つ。敷物に座ったり、横になったりしてもよい。感覚を全開に、感じるまま全てをゆったりとした気持ちで受けとめる。

ここでの時間が、一番大切。
一人一人自分だけの時間。自然と一つになれる時間と雰囲気を大切に作る。

下　山

日の出を見おわったら、軽い食事をとってもよい。周囲が明るくなったら、下山する。雲の多い日でも、しばらくして雲の間から日が出ることがある。すぐあきらめないで。

夜明けとともに活動をはじめる生き物もたくさんいる。そんな生き物との出合いも大切にする。

途中、水場で休憩を入れて冷たい水で顔を洗ってみるのもよい。

振り返り

みんなで登頂したことの喜びを分かち合うことも大切。

こんなことも…

「夕焼けハイク」

山の上で夕焼けを眺めるのもすてきな体験である。東の空は暮れなずんで夜の色。西の空は紫に染まる日の入り。夕方と夜にはさまれた時間と空間に自分を置いてみることで、自然の不思議さや美しさを感じさせる。

クモ博士になろう！

生き物とじっくりお話ししてみよう。いろいろ教えてもらえるよ。

こんな感動を…

- 虫たちが一生懸命生きている姿。
- 生き物の思わぬ生態を発見。
- 自然と一体化した気持ち。

こんな場面で…

1　場所は？

森や林の周辺　薄暗い軒下　水路等クモの巣の張っている所。

2　季節・時刻は？

5月、6月、7月が特によい。冬季はだめ。

3　活動時間は？

いつでも
月夜のナイトハイクとかねてもよい。
巣作りを観察する場合は午後から夕方がよい。

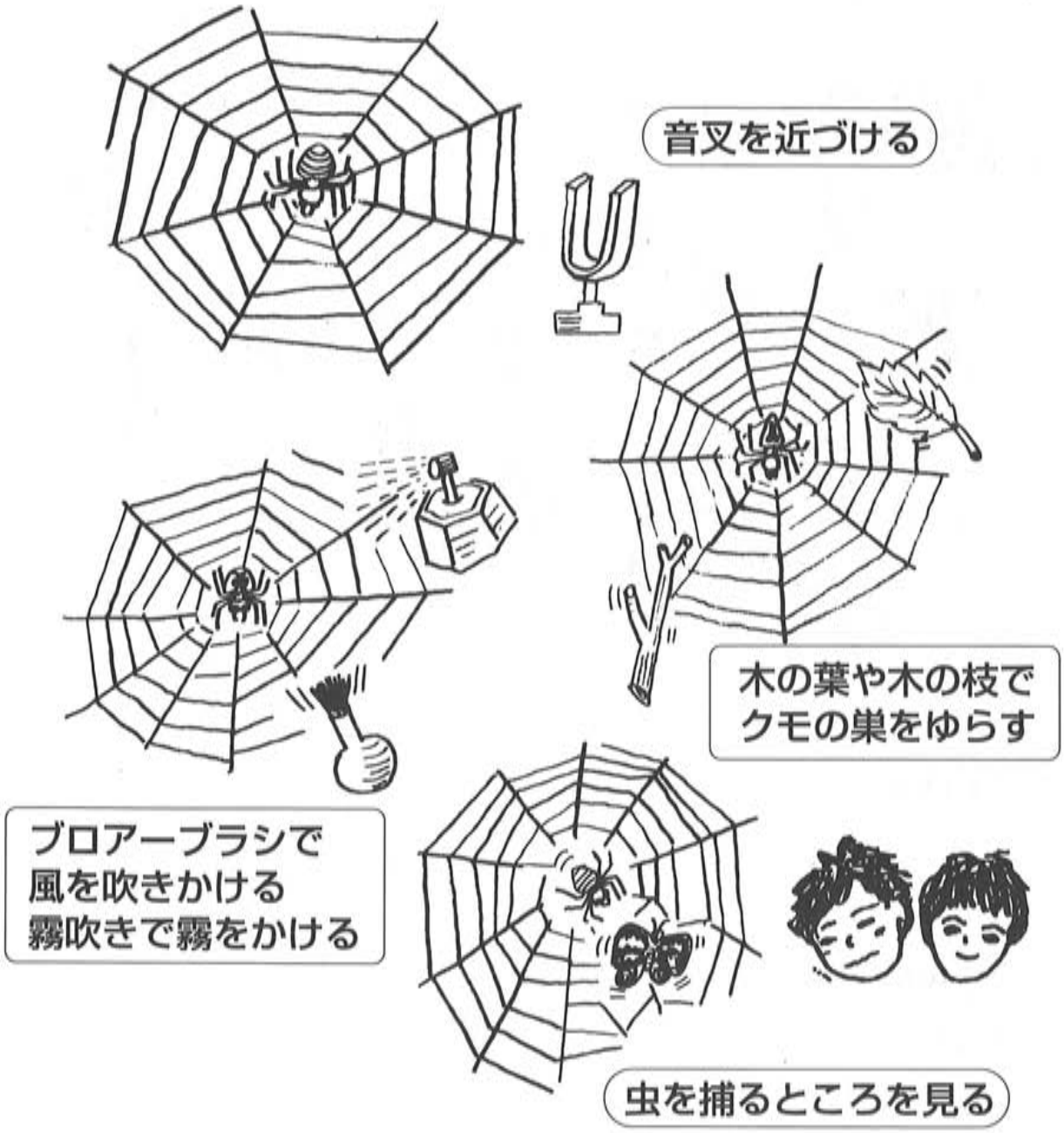
4　活動形態は？

一人一人自由に。または、少人数グループ。

5　準備するものは？

音叉　プロアーブラシ　小枝　懐中電灯　霧吹き

実際の活動…

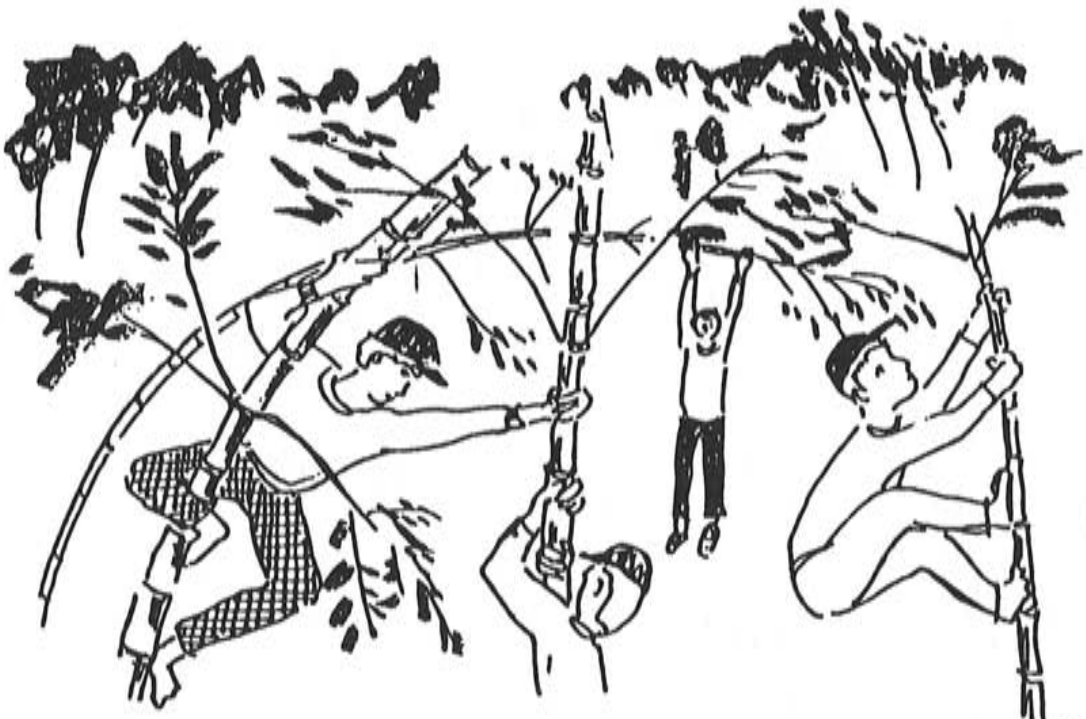


こんなことも…

- 時刻を変えて観察する。
- クモの巣を利用してセミを捕る。
- クモの巣の標本を作る。
- クモの巣をこわして、新しい巣を作るのを観察する。
- いろいろな種類のクモを見つけて巣の違いを観察する。
- アリ、アメンボ、トンボ、カタツムリ等他の生き物を観察するとおもしろい。

森で遊ぼう

自分たちの興味のあることにどんどんトライ！



（竹わたり）

こんな感動を…

- 自然の中で思いっきり体を動かす楽しさを味わう。
- 自然の不思議さやおもしろさ等、新たなものを発見する。

こんな場面で…

1　場所は？
下草の少ない歩きやすい森、いろいろな植物のある雑木林が好ましい。

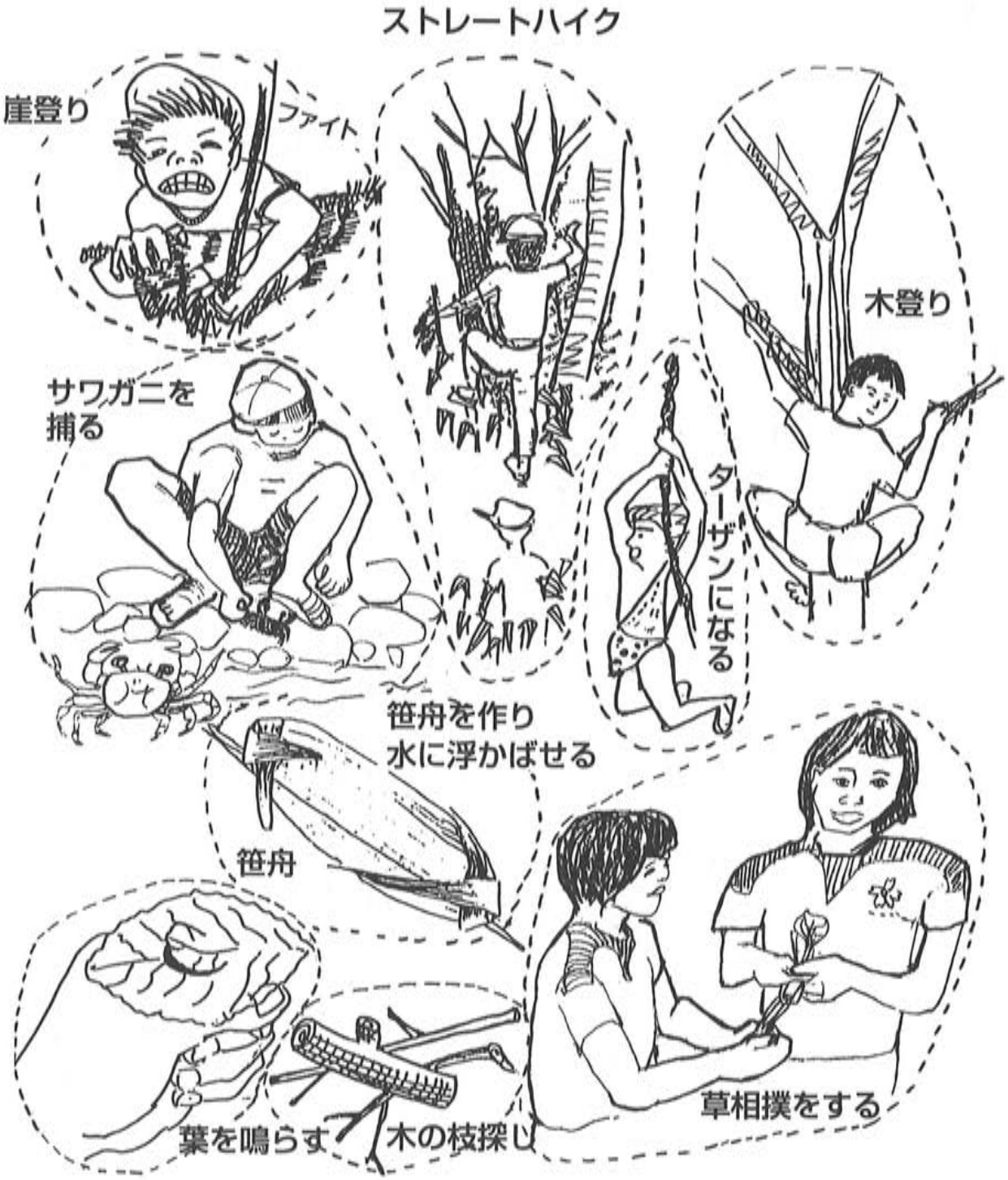
2　季節・時刻は？
いつでも

3　活動時間は？
半日または１日

4　活動形態は？
小グループ（６から12人が適当）　グループに指導者１人

5　準備するものは？
小刀　ロープ　ビニール袋等

実際の活動…

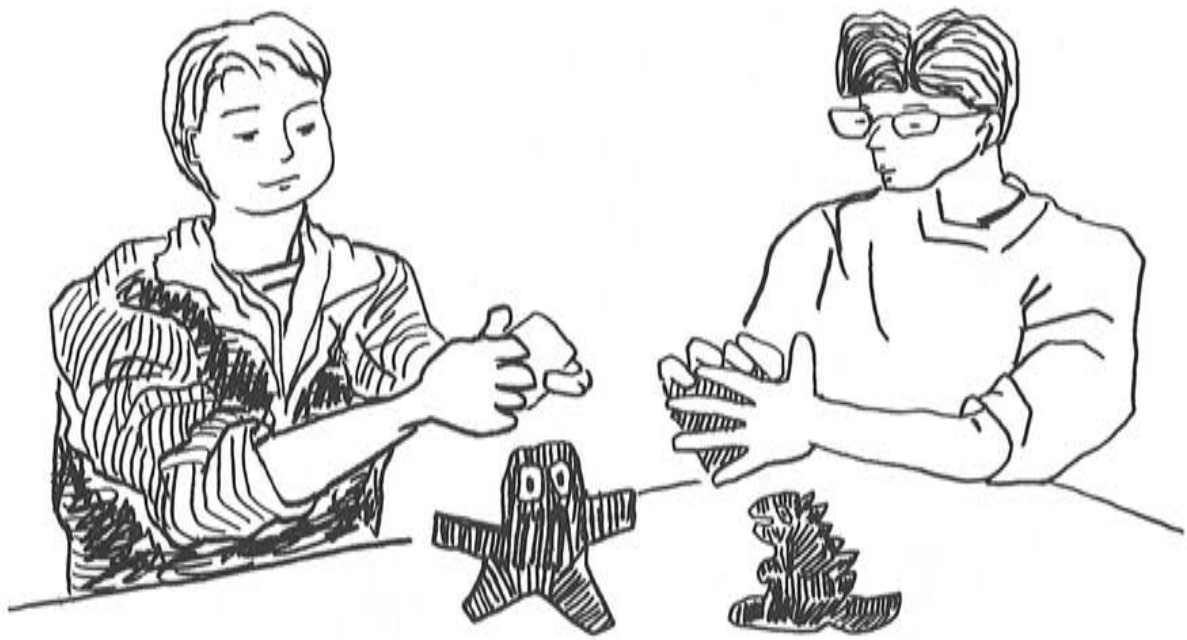


こんなことも…

- 帰ってから取ってきた木の枝で工作をする。
- 雪積時には雪を利用した活動をする。

粘土づくり！

土にふれ、土を知り、
土から創る



こんな感動を…

- 普段何気なく使っているものの多くが自然の恵みであることに気づく。
- 土の特性（多様性・温かみ）を再発見する。

こんな場面で…

1　場所は？
どこでも（地層の見える場所などがよい）

2　季節・時刻は？
いつでも

3　活動時間は？
1日　純度の高い粘土を作るのなら2、3日。

4　活動形態は？
1グループ3から5人くらいが適当。

5　準備するものは？
スコップ　シャベル　ミキサー　透明な容器　ふるい　すり鉢　すりこぎ　皿　食塩等

6　その他
純度の高い粘土を作るには、正確な工程と長い時間が必要になる。
土にふれ、土から創る体験を重視したい。

実際の活動…

土に触れる

・　土のある場所を探そう。
・　場所、地面からの深さ、まわりの自然環境などによって、いろんな土があることを発見する。

土を知る

・　粘土を作るには、どんな土が適しているか考える。
・　色、におい、触った感じなどから判断する。

粘土を作る

・　いろんな土から粘土を作る（取り出す）。

—工程—（純度の高い粘土を作る場合）

①　土を水に溶かし、ミキサーにかけ容器に移す。
②　①を７から８時間放置する（沈殿させる）。
③　②の上澄み液を別の容器に移す。
④　③に食塩を入れると「泥の豆腐」ができる。
⑤　④の上澄みを捨て、乾燥させる。
⑥　⑤をすり鉢で粉にする。

粘土で作る

きめは細かいかな。
湿らせたとき少し硬めのもちのようになれば最高ですね。

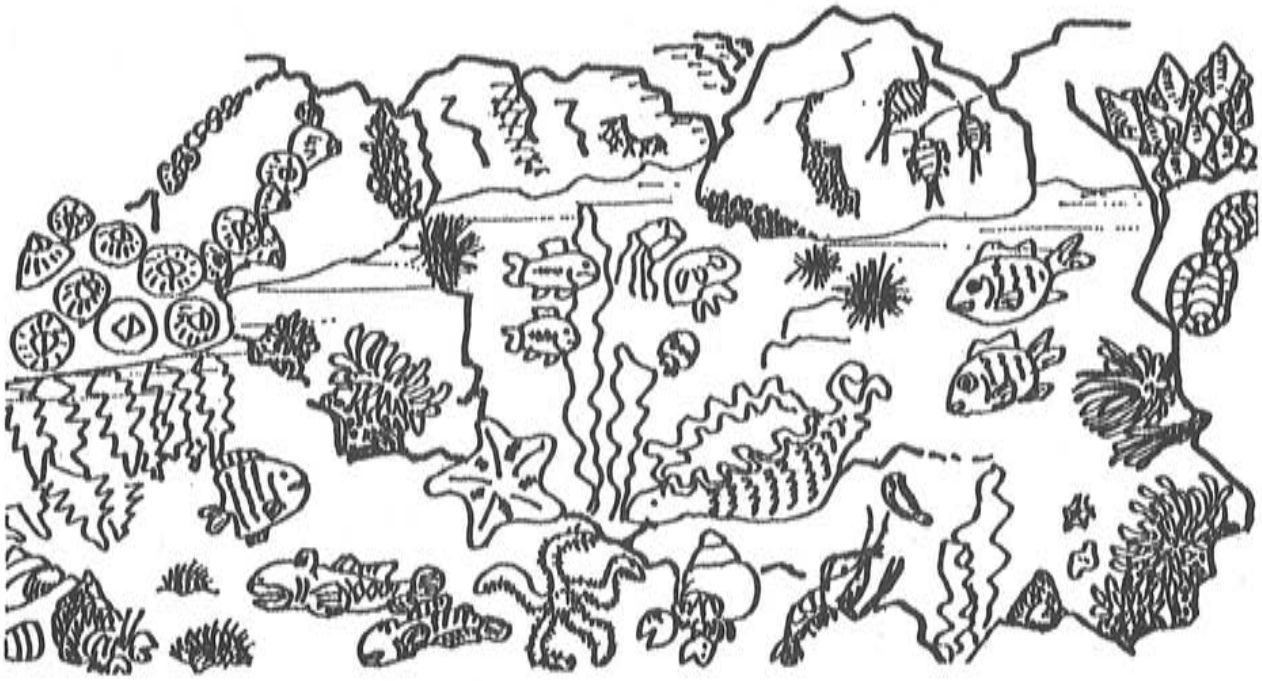
自分で作った粘土で自分だけの作品を創作する。

こんなことも…

・　土のにおいを嗅ぎ分けよう。
・　土の色を観察しよう。
・　泥水をろ化してきれいな水にしてみよう。
・　土から砂鉄を集めよう。

潮だまりで遊ぶ

磯辺の自然を
五感で感じよう！



こんな感動を…

- 生命の源である海の美しさ、神秘さを発見する。
- 「潮だまり」にすむ海の生き物たちの“生命”の営みにふれる。
- 「みつけた！」「つかまえた！」といった体験をしながら自然とふれあう。

こんな場面で…

1　場所は？
干潮時に「潮だまり」のできる磯辺。
水がきれいで、生き物の種類が多い方がよい。

2　季節・時刻は？
いつでもよいが、時刻は干潮時。潮だまりができる時刻。

3　活動時間は？
1時間から2時間くらい

4　活動形態は？
小グループ（3から5人くらい）

5　準備するものは？
箱眼鏡（水中メガネ）　軍手　網　バケツ　金べら　ホース（サイホンの原理で「潮だまり」の　水をぬく。）
服装は動きやすいもの。ビーチサンダルはさけ、ズック等を履く。

実際の活動…

★ 海には危険な生き物がいます。十分注意をして活動する。
★ カキがらで足を切ったり、ウニのとげでけがしないように注意する。
★ 「潮だまり」の近くが深くなっているような場所は避ける。

※遊んだ後は「潮だまり」をもとの状態になおしておこう！

こんなことも…

「ちいさな水族館見学ツアー」

ほかの潮だまりや波打ち際でつかまえた生き物も仲間に加えてちいさな水族館（潮だまり）をオープンさせよう。

その水族館に、みんなで“見学ツアー”に出かけよう。

「海賊鍋」

潮だまりや海岸で捕ってきた魚介類を「海の幸」として少しいただいてみよう。（食べられないものがあるので注意する）

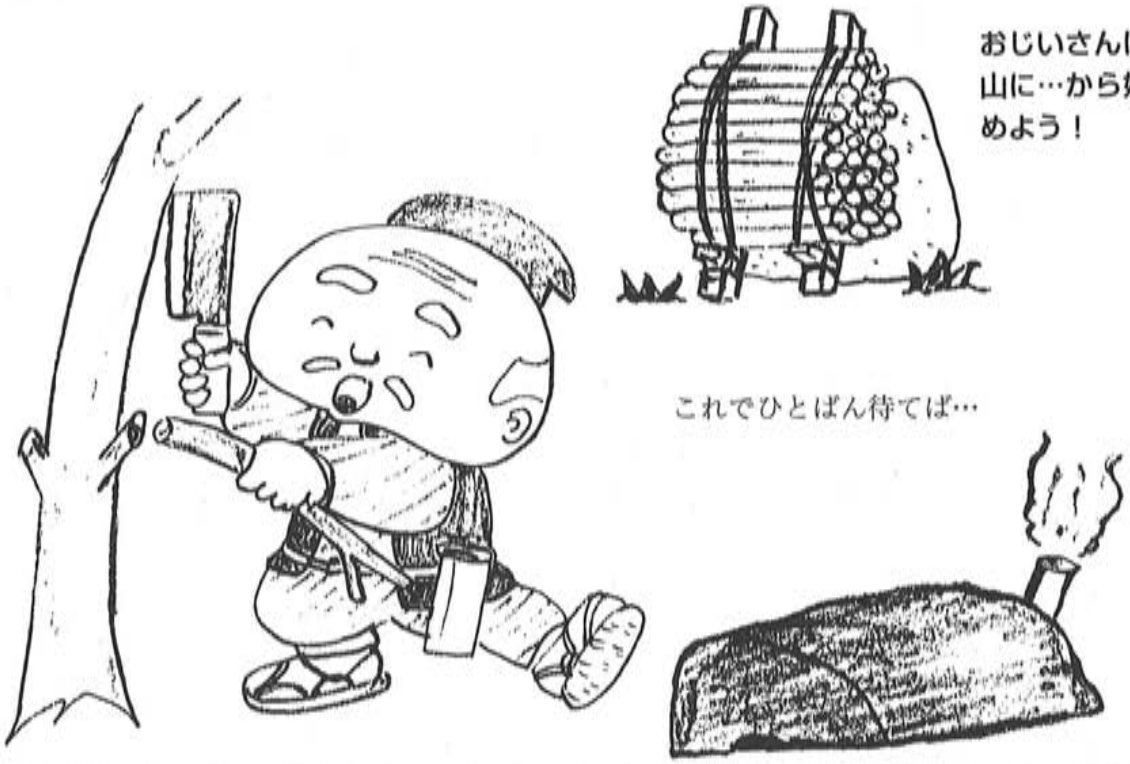
「夜の磯辺探検隊」

夜の海はとても神秘的。波間にきらめく夜光虫を見たり、夜の磯を探検する。

「砂浜で遊ぶ」

生きものを探したり、砂でいろいろな像を作る。

見直そう！自然から作るエネルギー



こんな感動を…

・　自分たちの力で炭をつくりあげた喜びを味わう。

こんな場面で…

1　場所は？

土の庭かグランド（穴を掘ってもよいところ）。水はけがよく、水が調達しやすいところ。宿泊施設から歩いてすぐがよい。夜に、見回りやすい。

2　季節・時刻は？

季節は問わないが、夜は寒すぎない時期。作業開始は、午前中がよい。

3　活動時間は？

原料集めから始まると着火までに２から４時間、着火から消火まで７時間以上、冷却に10時間程度、出炭作業に２時間。約24時間程。ただし、着火以後は、その場にずっといる必要はない。他の活動を平行させることは可能。

4　活動形態は？

５から10人ぐらいのグループが適当。もう少し多くても可能。経験のある指導者が班に１人必要。

5　準備するものは？

スコップ　なたやのこぎり　土を運ぶもの　シート　トタン板　煙突　火をおこすもの　軍手　てぬぐい　懐中電灯　うちわ

原材料は現地調達（間伐採　廃材　風倒木材　竹　割り箸　枯れ枝葉…）

6　その他

環境問題、林業の現状、炭の使い道などに関する話のネタを用意しておく。

夜食、飲み物、星の話など夜を楽しむためのものも効果的。

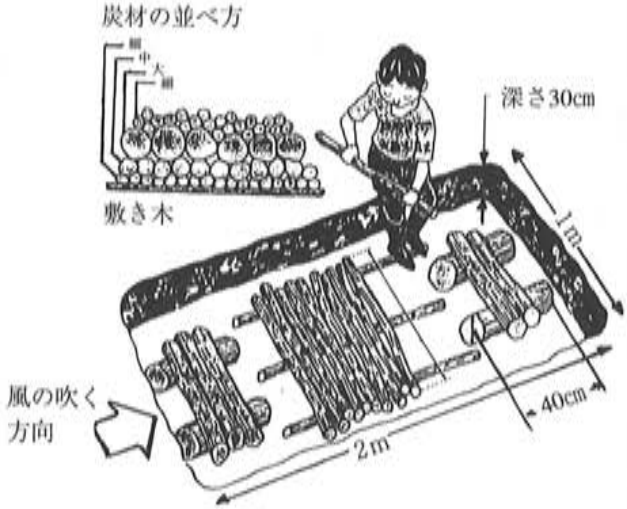
実際の活動…

1　木を切り揃える　穴を掘る（平行して）

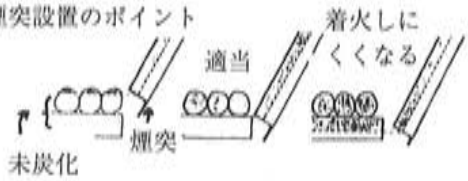
土は、後で使うのでよけておこう。

一休みしたら、作業を交代しようか。

2　掘った穴に、木を並べる



3　煙突をつけて、燃料・トタン・土をのせる

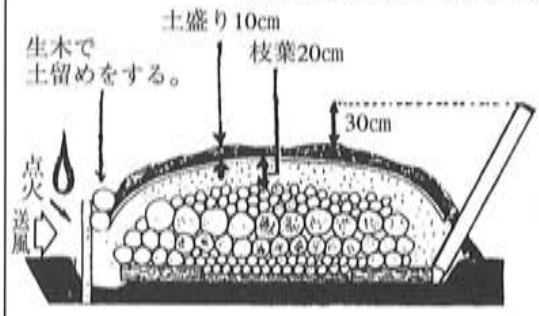


火がついて、煙が煙突から勢いよく出るまであおぐ。

燃料は、杉・檜の枝葉、枯れ草、落ち葉、竹、籾殻（もみがら）、わらなどがよい。

4　点火する

乾いた葉はよく燃えるよ。
檜の葉の燃える音を聞いてごらん。



5　交代で見回りをしよう

つくるときに感じたことを話しあおう。

数時間毎に煙の具合と土の亀裂（きれつ）を見回り、亀裂があれば土をかぶせて埋める。

6　消火する

通風口を土で塞（ふさ）ぎ、30分後煙突を外して煙突口を塞（ふさ）ぐ。
窯（かま）が冷えるのを待って（10時間）覆土（ふくど）を取り除く。

7　でき具合は…

火がつきやすくて、煙の出ないのはうまくできている証拠だよ。

こんなことも…

「できあがった炭を使って」

- 網焼き、鉄板もの、煮炊き（七輪を使用）、焼き芋などの燃料に使う。
- 火鉢に入れて暖をとる。
- ニオイをとる。
- 米をたくときに炭を入れることもできる。

きのこ探検隊

きのこは森のそうじやさん！

こんな感動を…

- いろんな種類のきのこを見つける。
- 枯れ木や葉っぱを土にもどすきのこの役目に気づく。

こんな場面で…

1　場所は？
広葉樹の林がよい。
あたりに、小川や植林地など変化のあるところが最適。
（事前に、幾種類かのきのこが確認できたところ。）

2　季節・時刻は？
春から秋（11月頃まで）の日中。

3　活動時間は？
2時間程度

4　活動形態は？
自由

5　準備するものは？
実施場所のきのこの紹介カード　軍手　採取用の袋　てぬぐい

6　その他
きのこについてわかりやすく説明できるもの（連鎖の図や紙芝居など）。

実際の活動…

1　本部設置　いくつかの例を見せる。

カラカサダケ

ムササビダケ

タマゴダケ

2　探検開始！

てがかり1
きのこは、じめじめが好き。

てがかり2
輪になって生えているのもあるよ。

てがかり3
枯れ木や枯れ葉が好きなんだ。

3　ちょっと一服　集めたものを整理し、見せ合う。

これは、ツキヨタケという毒きのこだよ。食べると…。ひっくりかえして見てごらん。はりはり、ひだひだ、あわあわ、いろいろあるでしょう。

この、ボールみたいなのは、タヌキノチャブクロ。キツネノチャブクロというのもあるよ。

このイソギンチャクのようなのもホウキタケというきのこ。

4　お話タイム

タイトル（例）（どうして山は、落ち葉でいっぱいにならないの？）

5　再び探検活動開始！　山での活動の子どもの関心を見計らって、探検を継続（変更）する。

6　きのこの味と香り　みんなで市販のきのこを使ったきのこスープを味わう。

こんなことも…

・「きのこ料理」
　とったものでなくとも、きのこを食べることと組み合わせると効果的。スパゲッティ、カレー、スープやみそ汁等、現地で食べる（市販のきのこを数種類使って）。
・　これを山遊びのプログラムの導入にしたり、現地までの往復をハイキングとして、その中間の活動に入れることもできる。
・　テーマは、きのこでなくともよい。自然の中での働きに気づけるもので、種類や数がある程度確認できるもの（クモ、木の実、葉…）であれば、探検として楽しめる（一つにしぼること）。

手作りフィッシング

でっかい魚を釣り上げよう

こんな感動を…

- 魚が釣り糸を引く力強い感触や釣り上げた喜び。
- 生きている魚を素手でつかんだ感触。

こんな場面で…

1　場所は？
海辺、川辺で人数に合った広さがある安全なところ。

2　季節・時刻は？
1年中可能ではあるが、春から秋が望ましい。
朝夕が最適

3　活動時間は？
釣竿づくりや餌獲りを含め1日

4　活動形態は？
少人数グループ

5　準備するものは？
釣糸　釣針　たも　うき　バケツ　餌　のこぎり（竹用）　なた（竹用）　剪定ばさみ

6　その他
地元漁協組合へ連絡し許可を受ける。

実際の活動…

釣竿づくり

自分の釣竿を作ろう。
・　材料（竹、枝等）の長さや太さを考え、自然の中からとってこよう。

↓

餌　集　め

魚はどんなものを食べるのだろうか。
・　魚つりの餌（ミミズ、虫、貝等）をグループで自然の中からとってこよう。

↓

魚　つ　り

釣り場を選ぼう。
・　魚がいる場所はどんなところだろうか。
・　速い流れや危険な場所でなければ、川の中に入って水の動きや川底の感触を体感しよう。
・　危険なことはしないようにしよう。
糸や餌は自分で付けよう。
魚が釣れた時の手応えを味わおう。

釣った魚の大きさ、色、匂いを確かめよう。

食べたり飼ったりしない魚は水に返してやろう。

釣り場を汚さないようにしよう。

↓

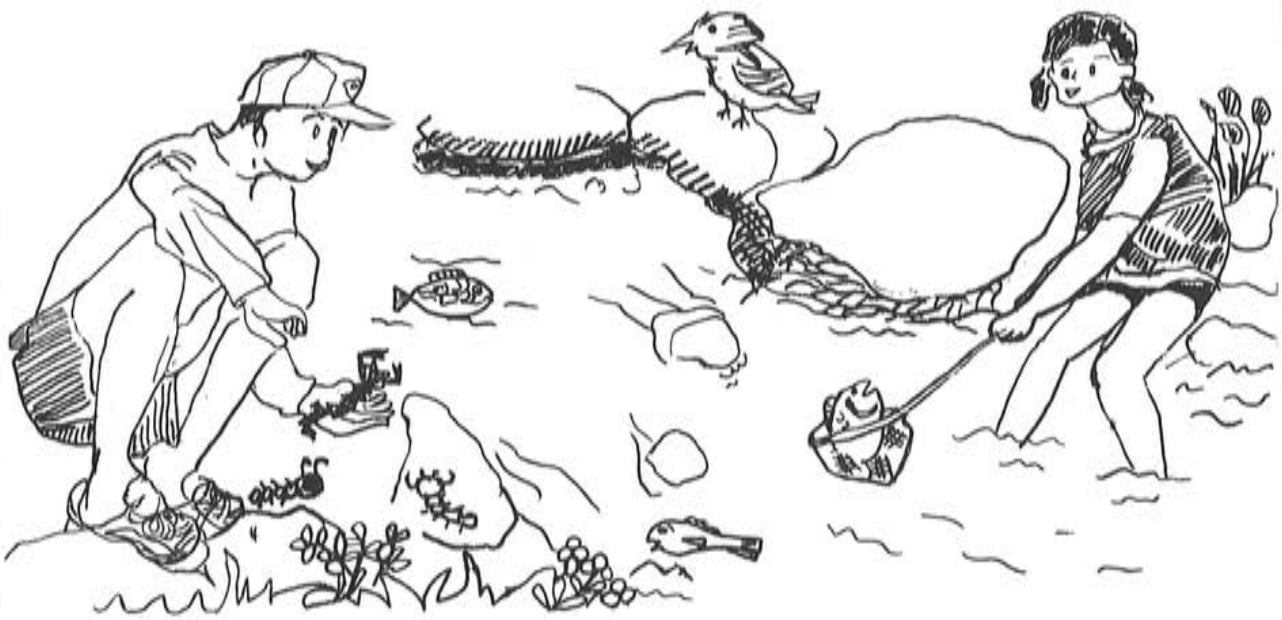
帰　　着

こんなことも…

・　いろいろな方法で魚をとる。
・　水の中に住む小さな生き物を調べる。

川の探検隊

川の水の流れを感じ、そこに生きる生物のたくましさを発見しよう



こんな感動を…

- 川の水の冷たさや流れ、川底のぬるぬる等を体感する。
- 川に住む生き物の存在に気づく。

こんな場面で…

1　場所は？

水深30cm程度で、こぶし大から頭ぐらいの大きさの石にある川。
岸の一方だけでも自然の草が繁殖しているところ。

2　季節・時刻は？

水が温かく生物の活動が活発な時期（５から10月）。

3　活動時間は？

１日

4　活動形態は？

５、６人のグループ

5　準備するものは？

バケツ　長ぐつ　トレー　水槽　たも網　ピンセット　ルーペ　水中生物図鑑　温度計　箱メガネ　筆　顕微鏡　双眼鏡　記録用紙　水着　タオル　帽子　軍手等

実際の活動…

必要な用具を準備する

出　発

↓

川に触れてみよう

- 素足になって水の流れの中に入り、川底の岩や石、砂の上を歩いてみよう。
- 滝の水を浴びてみよう。
- 石や砂を使ったり、自分の体で水の流れをせき止めてみよう。
- ササ舟をつくって流してみよう。

↓

川にすむ生き物を発見しよう

- 川縁の草をかき分けて小さな生き物を発見しよう。
- 水底の石を返し、裏側にいる小さな生き物を発見しよう。
- 泳いでいる魚を箱メガネで見よう。
- おもしろい（何かに似た）形の石を見つけよう。
- 魚やサワガニ、カエルをつかまえてみよう。
- 川原に咲く花を集めよう。
- 水辺にくらす鳥を見つけよう。

↓

帰　着

- つかまえたり発見した生物の名前を調べよう。

こんなことも…

「水源を探す旅」

沢登りをしながら水源をさがすのもおもしろい。

2　成就感、達成感、満足感の感動

- じまんの料理をつくろう
- 地域探検をしよう
- めざせ頂上
- 夜行性動物になろう
- 作ろう！飛ばそう！竹とんぼ
- 友達と大冒険だ！
- シェルターづくり
- うさぎのもちつき
- 生き物の残したあと見い～つけた！
- この一週間こんなことがあったね！

いちばん心に残った星座観察

芦屋市立岩園小学校　丹　羽　正　伍

好きな星座がたくさんあった。
芦屋ではあまり見られない多くの星。
ぼくは星が好きだ。
ここへ来て本当によかった。
星を見ているときの虫のロマンチックな声。
すごく印象に残った。

じまんの料理をつくろう

こんな感動を…

- 役割分担やメニューの決定から必要な器材の食器の調達やあとかたづけまでを自分たちの手でやりとげた。
- おいしい料理がつくれた。
- 自然の中の食事は楽しい。

こんな場面で…

1　場所は？

山　川　海　野外炊事場

2　季節・時刻は？

通年

3　活動時間は？

1日

4　活動形態は？

小グループ

5　準備

メニュー用紙　筆記用具　料理の作り方の資料　自転車　ヘルメット　野外炊事に必要な道具等

実際の活動…

これが自慢のメニューだ！
- 指導者はいろんな料理の例を準備し、相談に応じる。

↓

さあ買い出しだ！
- 材料、金額等を自分たちで考える。

↓

食材・調理器具の準備だ
- 調理に使用する器具の選別や使い方の工夫をする。

↓

つくるぞ！料理
- 創意工夫ができる時間をたっぷりとる。
- 残った食材を使って別の料理をつくる。

↓

うーん うまい！楽しい食事
- できた料理をテーブルに並べ配膳や盛付けを工夫する。
- 時間をかけ、楽しくおしゃべりしながら食べる。料理を交換しながら交流してもよい。
- 野外での食事をする場所を工夫すれば、自然環境そのものが雄大なダイニングルームとなり、新たな感動が得られる。

↓

さあかたづけだ！
- つくる時と同じように協力や責任ある行動ができるように、みんなで話し合い役割を決める。
- 残飯やごみの分別、洗剤の使い方、排水の流し方等の工夫により、地球にやさしいかたづけをさせる。

こんなことも…

「招待ランチ」「招待ディナー」

グループごとに自慢の料理づくりをし、屋台村やレストランを開く。

「野草を食べよう」

自然の中にある食べられる野草を自分たちの手で採集し、調理方法を工夫して料理する。その際、食べられるかどうかをよく吟味する。

地域探検をしよう

町の特色・産業・歴史・伝統文化・暮らし等を調べてみよう

こんな感動を…

- 地域探検での出会い、ふれあいを通して、特徴のある地図等をつくりあげる。
- 様子や雰囲気を自分の目で見、肌で感じることにより、自分の住んでいる地域との違いを実感する。
- 自分たちが興味・関心を持ったものについて調べる活動を通して、地域の知恵や人々のあたたかさを実感する。

こんな場面で…

1　場所は？
自然学校を実施している地域。

2　季節・時刻は？
通年

3　活動時間は？
1日（計画によっては2日から3日）

4　活動形態は？
グループ

5　準備するものは？
地図　カメラ　ビデオ　テープレコーダー　記録用紙　筆記具　自転車　ヘルメット　連絡用無線機　救急パック　水筒　帽子　ナップザック　軍手等

実際の活動…

調べること等を話しあう

・　スライド、地図、絵などを用意し、地域への興味・関心を高める。

↓

地域の歴史にふれる！
- **寺　　院**
- **古　　墳**
- **城　　址**
- **道しるべ**
- **民話のほりおこし**

・　取材先や取材方法の計画を立てさせる。
・　利用施設や関係団体、役場等にお願いして、資料を整えておく。

・　取材が重なって迷惑にならないように配慮する。
・　取材先・地域への協力を事前に依頼し了解を得る。
・　マナーや安全指導を徹底する。

↓

まとめをする

・　調べてきたことをわかりやすく地図にまとめる。
・　印象に残ったことや地域の人々とふれあった感想を話し合い、喜びや楽しさをわかちあう。
・　みんなの前で発表してもよい。

こんなことも…

「マップをつくろう」
　観光マップ　道路マップ　防災マップ　イラストマップ　英語版マップ等

「くらし発見をしよう」
　生活の様子　仕事　地域の人々の結びつき　年中行事等

「新聞記者になろう」
　農業　漁業　工業　商業　環境対策　特色ある町づくり　福祉問題等

「地域の仕事をしよう」
　農村・山村・漁村などの人々との仕事体験等

めざせ頂上

まわりの自然のちがいを
感じよう！

こんな感動を…

- 目標の場所まで登り切り、出発点からの壮大な道のりを確認し、やり遂げた気持ちにひたる。
- 山に登って行く中で、まわりの自然のちがいを五感で感じる。

こんな場面で…

1　場所は？

自然の豊かなところで活動拠点のまわりに峰が見える。

2　季節・時刻は？

春の新緑や野山に花が咲くときや秋の紅葉のまっただ中が最適である。

3　活動時間は？

1日

4　活動形態は？

小グループもしくは学級・学校単位（1グループに指導者は必ず1人以上）

5　準備するものは？

地図　非常食　懐中電灯　鏡　雨具　軍手　帽子　タオル　肌着の着替え　標高の高い場所では防寒着

6　その他

指導者が子どもたちに気づかせたいところを事前にみておく。

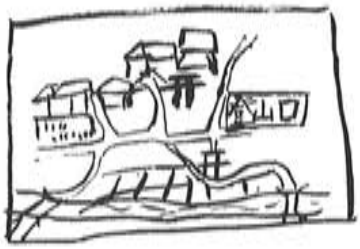
実際の活動

登れる山を決める

・　施設から見える山のうち、登れる山を決める。
・　道があるか確認し、歩くコースを決める。

〈当　日〉

出　　発



・　コースの道を再度確認しよう。

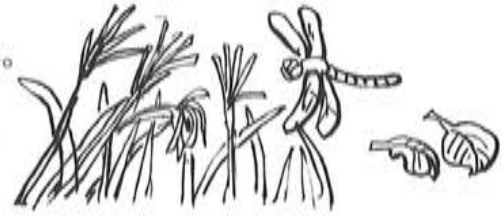
ちょっとひと休み

みんなで考えてみよう

・　山のふもとで、田畑と自然との境目付近を見よう。
・　いろいろな音を聞いてみよう。
・　住民の方がいたら、作っているものなどを聞いてみよう。
・　自然を利用したり、壊したりしたところを探してみよう。

こんなことも考えてみよう

・　何か見たことがないようなものを探してみよう。
・　自然のちがいを見つけよう。
（木の葉の大きさや色、植物の種類、温度等）



頂上に着いた！

やってみよう

・　山頂で大きく深呼吸してみよう。
・　山頂から出発場所を眺めてみよう。
・　ちょっとひと休みした時に聞こえた音と山頂での音とを聞き比べよう。
・　出発場所へ合図（鏡等）を送ってみよう。

下山・帰着

・　歩いた距離は？

こんなことも…

「ナイトウォーキング」

夜に長距離を歩く

「ハーフマラソンの距離に挑戦」

20kmの距離を歩く

夜行性動物になろう

夜をからだで感じよう！

こんな感動を…

- 一晩寝ないで過ごすことで日中と夜中の自然のちがいを五感で感じる。
- 夜行性動物の活動を知る。

こんな場面で…

1　場所は？
キャンプファイヤー場

2　季節・時刻は？
春のおわり頃から秋のはじめ頃までが最適である。

3　活動時間は？
当日の午後から翌日の昼まで

4　活動形態は？
班単位もしくは学級単位

5　準備するものは？
懐中電灯　防寒具　雨具　軍手　帽子　タオル　野外炊はん道具　スケッチ用具等

実際の活動…

日の入りと睡眠

・　昼食後、日の入りと日の出の見える場所を確認したあと、休養を十分に取る。
・　夕方に起きだして、まず日が沈むのを眺める。

まわりの観察

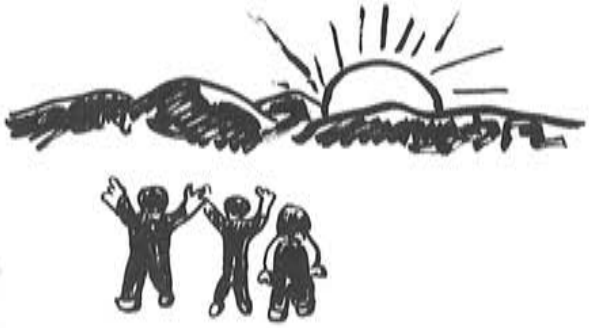
・　活動付近の風景をよく見てみよう。
・　夕食を作ろう。
・　薄暗い所での活動の難しさを体験しよう。

夜中の観察

・　暗闇に慣れるのに、どのくらい時間がかかるか測ってみよう。
・　自分の見える範囲で、簡単にスケッチしてみよう。
・　夜食を作ろう。

森の中を歩いてみよう

・　いろいろな生き物をみつけよう。
・　音を探してみよう



日の出と睡眠

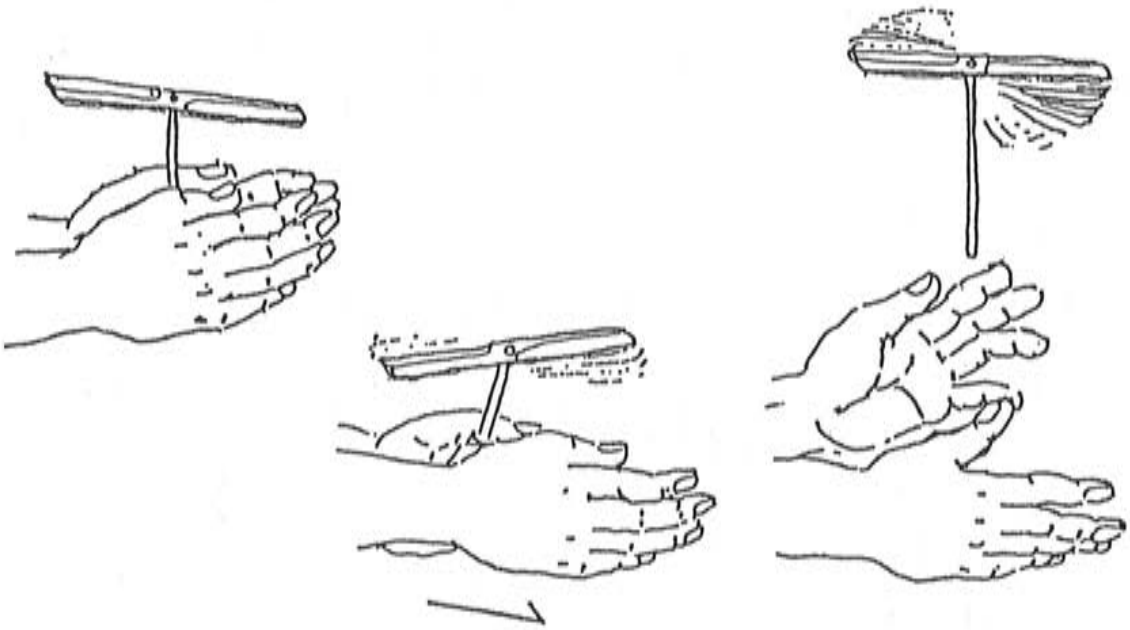
・　日の出を眺めよう。
・　朝食を作ろう。
・　昼まで休養を取ろう。

こんなことも…

「朝まで観察、夜の星空」
グループで星の動きを一晩かかって観察する。

作ろう！飛ばそう！竹とんぼ

できた喜び、飛んだ感動



こんな感動を…

- 身近な自然の素材である竹から、竹とんぼを自分の手で作れた。
- 手作りの竹とんぼがよく飛んだ。

こんな場面で…

1　場所は？
飛ばしながら改良を加えるので戸外の方がよい。

2　季節・時刻は？
いつでも

3　活動時間は？
半日から１日

4　活動形態は？
５、６人のグループ

5　準備するものは？
真竹　サインペン　小刀　きり　ものさし　やすり　軍手　なた（竹用）　木づち等

6　その他
真竹は当年のものであまり乾燥しきっていない方が柔らかく削りやすい。
孟宗竹は肉厚なので向かない。
失敗してもやり直しができるように竹は余分に準備する。

実際の活動…

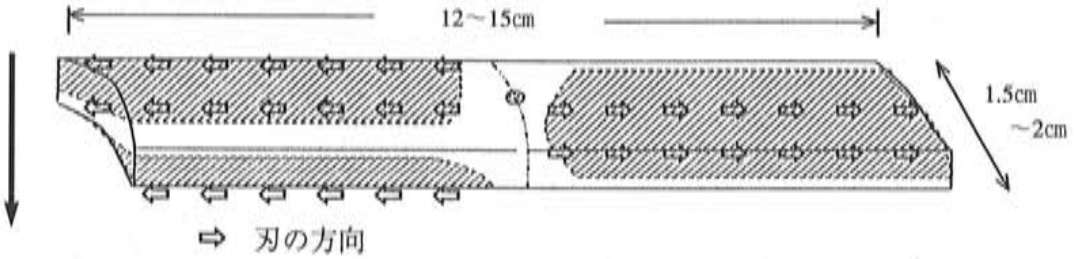
「竹」を知る

1本の竹を、とにかく、自由に

- 切ってみよう！（繊維のようす）
- 割ってみよう！（さける性質）
- 削ってみよう！（内側と外側のかたさ）
- 嗅いでみよう！（竹の香り）

つくる

羽は出来るだけ薄く、軽く



- 削る部分をサインペンで書き、表と裏を少しずつ丁寧に削り取る。
- 厚さは２㎜程度。
- 竹の繊維のようすを利用して。

心棒の長さは羽より長く
バランスが大切

飛ばしてみる ➡ さあ飛ばせ！

飛ばない

手直し

① 両手で心棒をはさみ、少し羽が前へ傾くように持つ。
② 両手の平をこすりあわせるようにして、勢いよく右手を前へ押し出しながら、勢いをつけて飛ばす。

○ より高く
- 羽はできるだけ薄く、軽く。
- 心棒は軽くて、しっかりと。

○ 回転のさせ方
- 勢いをつけるだけでよいのか。
- やさしく、手になじませて。

こんなことも…

「ブチごまづくり」　「竹けん玉」
「竹スキー」　「竹うま」
「竹のブンブンぜみ」

友達と大冒険だ！

こんな感動を…

・　友達と力を合わせ、課題などを解決して、やりとげた喜びを感じる。

こんな場面で…

1　場所は？
実施施設のある場所

2　季節・時刻は？
通年

3　活動時間は？
1日

4　活動形態は？
4から6人のグループ

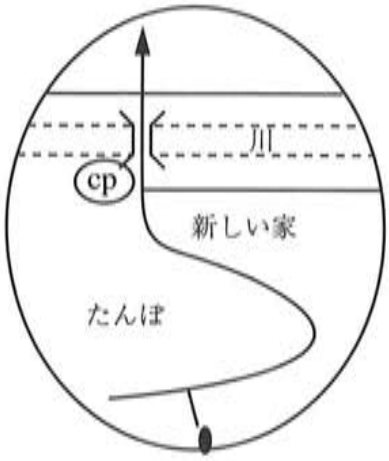
5　準備するものは？
コース図　課題　ラリーカード　チェックカード　班旗　時計等

6　その他
歩くことの楽しさ、自然に親しむゆとりを大切にしたい。
距離は10から15km。

実際の活動…

出　発　前

・　ルールを知る。
・　コマ図の読み方を知る。



さあ　出発だ　スタート！

・　班ごとのスタート時刻の間隔を十分にとる。
・　友達と協力して課題にいどむ。

◀課題例▶

古墳めぐり
民話あつめ
方言しらべ　　等

活　動　後

・　体験談発表会をする。

こんなことも…

「地域めぐりビンゴ」

課題と地図をもって、グループごとに順序関係なしにウォークラリーをする。

シェルターづくり

夜の友達とお話会の始まりだ

こんな感動を…

・　自然の木立ちの中で自分の力でシェルターをつくりあげた喜びを味わう。

こんな場面で…

1　場所は？

木立ちの中で神秘的な所

2　季節・時刻は？

泊を伴わなければ１年中。
作業は日中で、２、３日かかるほうがよい。

3　時間は？

１日で終了してもよいが、３日から５日ぐらいの幅がある方がよい。

4　活動形態は？

１カ所に１人、もしくは２、３人の少人数。

5　準備するものは？

木切れ　ロープ　ビニールシート　銀マット　シュラフ　ダンボール　のこぎり等

6　その他

安全性は指導者が確認する。

実際の活動…

山の中で遊ぶ

山の中は、みんなのものだよ
- 自然観察やジャングルジム。
- 一人用テントで昼間過ごす。
- 夜の一人歩きを体験する。

このような体験を事前の興味づけの活動として実施しておくとよい。

シェルターづくり

さあ、すみかづくりだ
- 場所選び　・設計図
- 材料集め　・棟上げ式

児童の発想を大切にしながらも、しっかり相談に乗ってやることで、最後まで仕上げさせたい。

シェルターの生活を試して補修する

試してごらん
- 意を決しての宿泊体験

眠らなくてもよい。
- 友達を招待するために補修

他者を招待することで、責任感を持たせたり、補修することで、出来上がりの感動へとつなげたい。

自分でたてたシェルターでの生活を楽しむ夜の友達とお話会

友達を呼んでおいで
- 生活プログラムづくり。
- 食事の調達。
- 友達とのディナーパーティー。

シェルターでの生活を楽しむことで、創作過程を振り返りつつ、自分の頑張りに満足する。

自然のお友達にお礼を言うよ
- あとかたづけをして森に返す。

振り返り

- あとかたづけが終了したらくつろぐ。
(風呂に入るのもよい)
- お話の絵本づくり。

こんなことも

「基地作り」

グループで協力し基地を作る

うさぎのもちつき

月にはうさぎがすんでいる？

月は５円玉の穴の大きさと同じだよ！地球や月が動く・・・分かるかな？

こんな感動を…

・　月のあかりが意外と明るいものだと気づき、その月を観察すると見える模様や月の動き等を発見した驚きが感動に！

こんな場面で…

1　場所は？
家や街の灯が見えない広場。動きをみるためには目じるしにするものがあることが必要。少し木立がある方がよい。

2　季節・時刻は？
一年中（寒い時期の方が安定してよい）。
月齢12から16がよい。11以下はうさぎがわかりにくいし、17以上なら月が昇るのが遅くなる。

3　時間は？
夕方から１回の観察時間は30分程度でよい。

4　活動形態は？
小グループ

5　準備するものは？
双眼鏡またはフィールドスコープ　望遠鏡　　５円玉　記録紙　敷物　シュラフ

6　その他
５日間通して観察すると変化が分かりやすい。
手づくり望遠鏡をつくり観察するのもよい。
昼の月と見比べるのもよい。

実際の活動…

活動の下準備

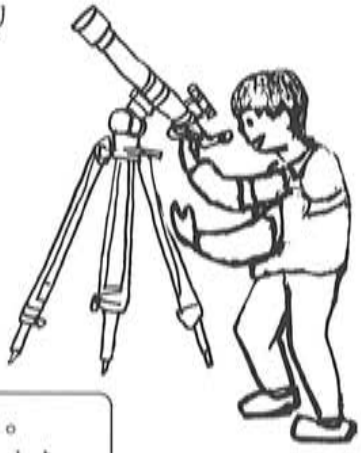
ナイトハイク

・　月明かりだけを頼りに歩く

月の正体を見よう

双眼鏡等で明るい月をのぞく

・　眩しいぐらいに明るい月にビックリ



月であそぼう

関心を誘うものを

・　月の表面の模様は何だろう。
・　30分後にも同じ所に見えるかな。
・　５日後の月は同じ顔？
・　月の大きさを測ってみよう。
・　指に５円玉をはさんで、腕いっぱいに伸ばしてから見る。
・　月の模様をスケッチしておこう。
・　他の友達の調べた結果もメモしておこう。

感動を記録に

振り返り

・　お話づくり
・　絵本づくり
発表会

こんなことも…

「星空の観察」「雲の観察」

「太陽の観察」

生き物の残したあと見い～つけた！

ぼくらは冬の雑木林の探検隊

こんな感動を…

- 雑木林の中などで生きものの痕跡を発見する喜びを味わう。
- 雑木林はいろんな生きものの生活の場であることに驚く。

こんな場面で…

1　場所は？
雑木林など。あまり下草等の生えていないところが活動しやすい。また、動物の痕跡を見つけようとするならば、独立した小さな丘程度の山よりも、連なった山の方が良いであろう。

2　季節・時刻は？
木の葉が落葉した秋から冬にかけて。一見生き物がいないように見える時期に見つける方がおもしろい。また、林の中も明るく活動しやすい。

3　活動時間は？
半日または１日（痕跡をとる方法により異なる）

4　活動形態は？
３、４人程度のグループ

5　準備するものは？
動物の足跡等の載っている図鑑などの資料。
痕跡をとるためのもの。
○　紙に描くなら―画用紙　鉛筆または色鉛筆等の画材
○　石膏で型を取るなら―油粘土　画用紙　石膏　石膏をとかす入れ物 印を付けるための釘等
○　直接足跡を取るなら―墨汁　模造紙　布

6　その他
少ない人数でじっくり活動したほうがよい。

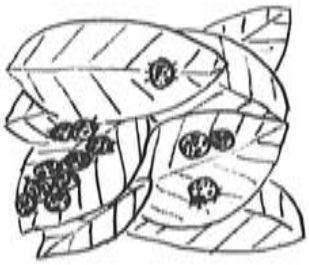
実際の活動…

生き物の残した痕跡を示す

意欲の喚起

おそらく、子どもたちは生き物が痕跡を残していることを知らない。木も葉を落とし、生き物もひっそりとこもっているということぐらいであろう。また、痕跡が残っていてもそれが生き物の残した物だと気がついていないことも多い。それを伝えてやることで、探してみようとする意欲を喚起する。

探す方法、探す場所等を相談して出発



発見の手がかり

やみくもに探しても、実際のところはなかなか見つからないであろう。そこで見つからない場合には、探す方法や探すと見つかりやすい場所、生き物の痕跡の例などをアドバイスする。

方法・場所

- 木のうら　・　落ち葉の下　・　石の下
- 草が踏み分けられているところ（けもの道）

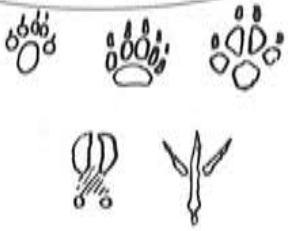
アドバイス

- 動物の足跡等、生き物の痕跡の例。
- 子どもたちで調べられる資料。

見つけた生き物の痕跡をとろう

生き物の痕跡をとる方法を伝える。発見したものを画用紙に描いたり、足跡を石膏でかたち取るなど様々な方法が考えられる。

発見してきた生き物の痕跡を発表



こんなもの見つけた

お互いの見つけてきたものを振り返る。

- 見つけてきた痕跡の発表。
- どんな生き物が残した痕跡かを発表。

（想像図を描いたり、お話をつくったりする。）

自分の知らない発見を聞くことで、自分ももっと見つけてみようという意欲につながる。

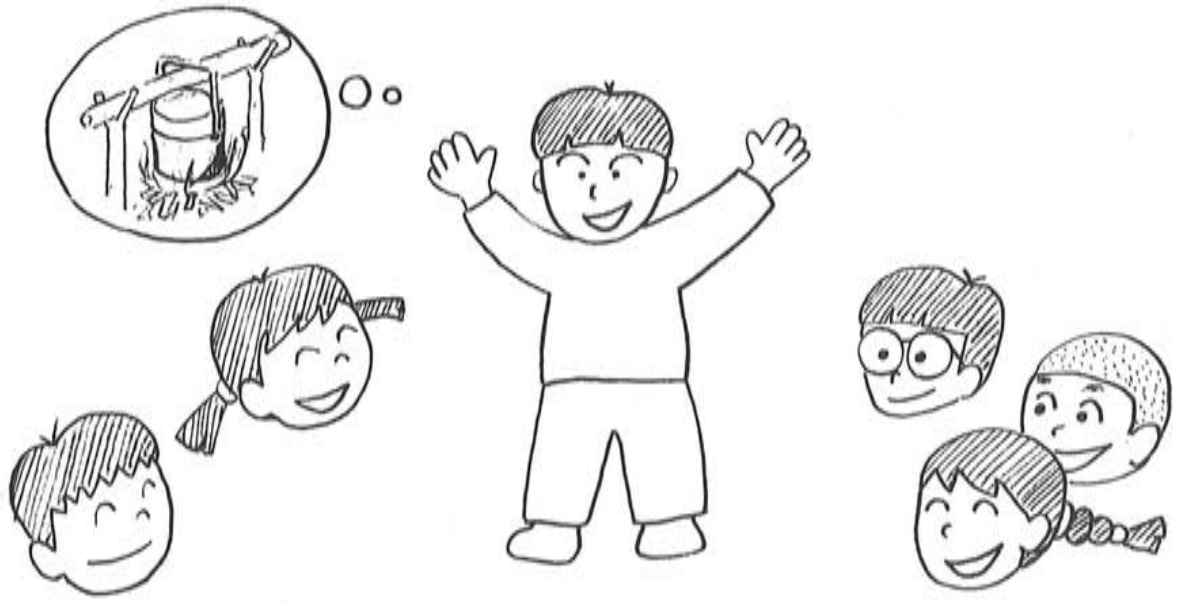
また、よく似たものを見つけていても、見つけた人によって見方が違うかもしれない。なぜそう考えたのか等を話し合うのもよい。

こんなことも…

「虫は冬どうしているの」「ちいさい春を見つけよう」

この一週間こんなことがあったね！

自然学校最後の夜を過ごそう



こんな感動を…

・　自然学校の一週間を振り返り、つらかったことや感動したことなどを発表することでやりとげた気持ちを高める。

こんな場面で…

1　場所は？

特に決まった設定はないが、一週間をじっくりと振り返れる落ちついた場所がよい。

2　季節・時刻は？

季節はいつでもよい。時刻は自然学校最後の夜。しかし、この夜を創るためには、それまでの気分の盛り上がりと準備の時間が大切である。

3　活動時間は？

1から2時間　特に気温が低くなった場合の屋外実施は短時間に。

4　活動形態は？

全員が輪になって。ただしあまり多人数になりすぎると深まりが充分でない。最高でも30人程度まで。一週間の中で最も密度の濃い時間をともに過ごした集団でするのがよい。

5　準備するものは？

特に決まったものはない。ファイヤー形式でするならばその準備。

実際の活動…

どんな最後の夜にするか話し合う

・　キャンプファイヤーは必ずしもしなければならないものではなく、また、するとしてもその方法は決まった形式があるわけでもない。ただにぎやかな時間を持つよりも、この一週間をじっくりと振り返れるような時間、方法の設定を考えたい。
・　子どもの実態に合わせて、どういった時間、場所、方法、内容の設定が適切か考える。
・　その中で、実態をふまえて楽しいゲームをする時間も入れていくと楽しい。

この一週間で得たものを発表する方法について話し合う

発表の内容と方法

・　どんな一週間であったか、その間にどんな体験をしたかをじっくりと振り返らせることが大切。
・　自分たちの体験をどうやったらわかりやすく発表できるか考えさせる。子どもたちの思いを大切にした発表内容、また発表方法を考えさせる。しかし、発表の方法については、子どもたちが考えにくい場合、子どもたちの思いがふくらむようにアドバイスを。
・　全員が発表に関わること。
・　寸劇、歌、ダンスなどで表現。
・　時間は５分以内（短ければ繰り返せばよい）。
・　動作と声で勝負。
・　見る人のことを考えてわかりやすくする。
・　全員で楽しい時間を盛り上げる。
（声や拍手で盛り上げよう）

お互いに発表し合う

発表のポイント

・　共感しながら聞く雰囲気作りをする事が大切である。

終わったあと、ゆったりと今日までの一週間を振り返ってみる

個人にかえす

感動を表現しよう。
・　絵、詩、絵巻物にする。
・　友だちのよかったことを話す。
・　つらかったけどよかったことを話す。

こんなことも…

閉校式も形式にこだわらずにやってみては…

3 人に対しての感動

- 遠くへ行きたい
- 名人追跡
- お年寄りを訪ねて
- 私たちの手で次の世代へ
- 伝承遊びに挑戦
- 同じ釜の飯
- 聖なる火を囲んで
- 歌は友達

星が流れた

神戸市立南五葉小学校　高　木　洋　治

こんな自然いっぱいの場所に来れてよかった。
あと一週間はいたかったな。

ぼくが知らない虫がいた。
知らない花が咲いていた。
夜にはとっても美しい星が見れた。
流れ星がでた。
ぼくはずっと見ていた。

遠くへ行きたい

みんなで見て、聞いて、知ろう!

こんな感動を…

- 班員と協力することで、友達の良さ、大切さ、素晴らしさに気づく。
- 地域の探訪し、地域の人とふれあうことによって、地域の素晴らしさや人の優しさや温かさを感じる。
- 地域を大切にする心を育てる。

こんな場面で…

1　場所は？

木々や水等がたくさんある自然に囲まれたところや寺社や資料館等地域にゆかりのある施設があるところ。

2　季節・時刻は？

春・夏・秋いつの季節でもよい。

3　活動時間は？

朝から夕方まで１日たっぷり時間をとって。

4　活動形態は？

少人数のグループ（１グループに指導者は必ず１人）

5　準備するものは？

地図

実際の活動…

出　発

・　地図の見方・使い方を思い出そう。
・　歩いたり、バスや電車に乗ったりして目的地に行こう。

・　班の仲間で相談しよう。
きっと目印があるはずだ！
（ポイント例）
寺院　神社　植物園
博物館　資料館　公園
滝　史跡等

さあポイントをまわり、課題に挑戦だ！

・　班の仲間で考えよう。
・　しっかり見て答えを探そう。
・　土地の人から話を聞こう。
（答えやヒントが聞けるかも…）
（課題例）
このお寺ができたのはいつ頃でしょう。
この木の言い伝えは何でしょう。

・　疲れた友達はいないかな？
励ましそう。
助けよう。
お茶を分けてあげよう。
・　困ったら地元の人に尋ねよう。
・　緊急時の連絡体制を確認しておこう。

帰　着

・　活動をふりかえろう。
個人で、班で、全体で。
・　お世話になった方へお礼の手紙を出そう。
・　他学年に児童に自分たちの活動を伝えよう。

こんなことも…

「ヒューマン・ウォークラリー」

その土地の有名な人、ゆかりのある人を訪ねて歩く。

名人追跡

名人の仕事の秘密を探そう

こんな感動を…

・　名人と生活を共にすることにより、名人の仕事にかける熱意、意気込みを体感することによって、名人の技や仕事の仕方・生き方を感じとる。

こんな場面で…

1　場所は？
名人の活動について回るとよい。

2　季節・時刻は？
いつでも

3　活動時間は？
1日単位で活動するとよい。長時間名人と行動を共にすることにより、名人の仕事に対する感覚をできるだけ体感できるようにする。したがって、2日あるいは3日間連続のプログラムも考慮したい。

4　活動形態は？
名人の数にもよるが、なるべく少人数で活動できるよう配慮する。

5　準備するものは？
活動に応じたもの

6　その他
名人は、例えば畜産農家、林業に携わる方等、子どもたちに臨地体験をさせる上で望ましい方々を施設と連携して確保する。

実際の活動…

出　発

・　子どもたちに、名人の仕事についてのあらましを事前に知らせ、選ばせる。
・　活動にふさわしい服装で訪問する。

〈名人選び〉
・炭焼き
・下草刈り
・陶器づくり
等

名人と行動を共にする

・　可能な限り、名人と離れず、仕事の仕方だけではなく、名人の生活などに直接ふれるようにする。
・　名人の漏らす言葉や行動などについて、追跡のヒントになるものは注意深く聞き取ったり観察したりする。
・　体験が可能なものについては、子どもが活動できるよう事前に打ち合わせておく。

帰　着
まとめる

・　各グループごとに、体験したことをまとめる。
　特に名人と生活した中で、名人のすごさ等気がついたことをていねいにつづる。
・　グループごとの発表会を開くのもよい。

こんなことも…

「一日お手伝い」

自分がやりたい仕事を大人といっしょに一日たっぷりと体験する。

お年寄りを訪ねて

お年寄りの話を聞こう

こんな感動を…

・　時を経ても子どものころの心と心が通い合ったよさに気づく。

こんな場面で…

1　場所は？
民家の日当たりのよい縁側に腰をおろして

2　季節・時刻は？
春もしくは秋　10時ごろ

3　時間は？
１時間程度

4　活動形態は？
グループ単位か２、３人の少人数

5　準備するものは？
筆記具　テープレコーダー　話のネタになるもの（文集・写真等）　昔の遊び道具

実際の活動…

出　発

・　訪問家庭に事前に連絡する。
・　子どもたちの日常の活動の様子の写真集を準備し携行する。
・　文集もあれば…。

↓

お年寄りの話を聞く

・　昔の遊びや、学校での思い出も交えて、子どものころの友達についての話を中心に聞く。
・　お年寄りの経験の深さが分かる話やそれに基づく生活観などを聞けるとよい。

↓

帰　着

↓

発　表
グループごとに

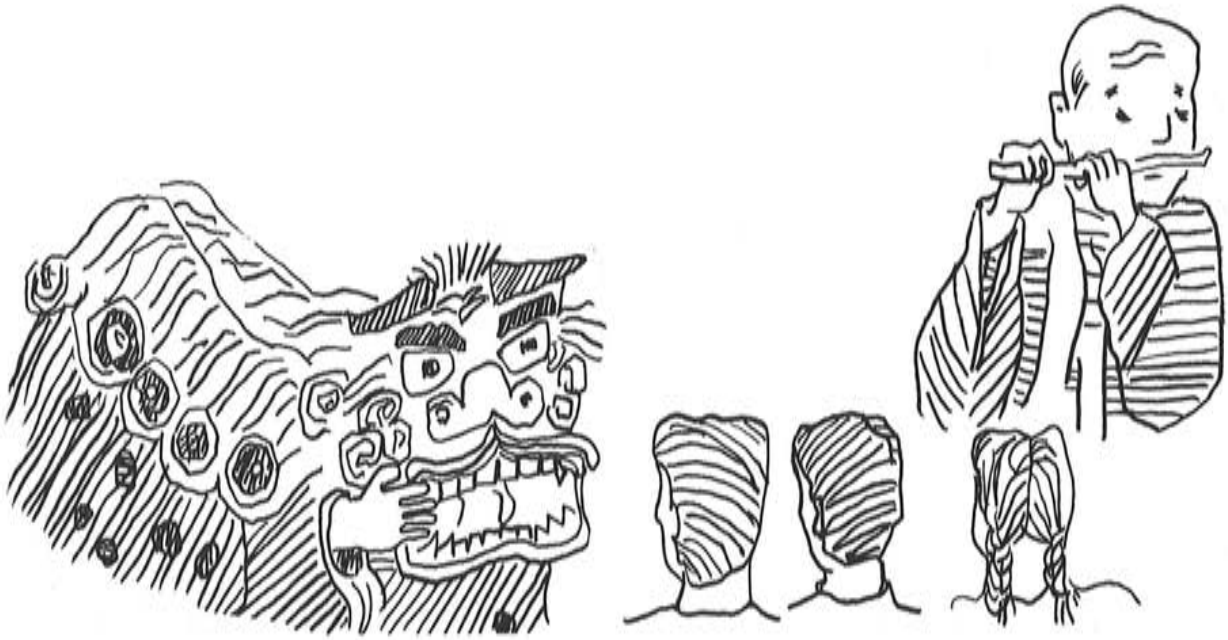
・　班ごとの感想も交えて発表する。
・　お礼の手紙を書く。
・　知っているお年寄りに手紙を書く。

こんなことも…

「保育園や幼稚園に行こう」「福祉施設の訪問」

私たちの手で次の世代へ

地域の伝統文化にふれよう



こんな感動を…

- 「祭り」と「自然」は結びつく。
- 「祭り」には自然に対する畏敬の念・賛美などいろいろな想いが込められている。そんな「祭り（伝統文化）」にふれることで遠い昔からの生活の営みを実感し、大自然に対する先人たちの想いにせまっていきたい。
- 伝統文化を受け継ぎ次の世代に遺していくことの大切さ、伝統文化の中に存在する人間の営みの素晴らしさに気づく。

こんな場面で…

1　場所は？
その伝統文化の真髄に迫ることのできる場所が望ましい。

2　季節・時刻は？
その祭り（伝統文化・伝統芸能）にあった季節が望ましい。
「田植え踊り」を真冬にする…なんてことのないように。

3　時間は？
通常、半日単位で考えればいいのでは。
しかし、場合によっては5泊6日のプログラム全体を通して考えても構わない。

4　活動形態は？
学年全体で取り組む。
場合によっては、パートごとに活動する時間帯があるかも知れない。

5　準備するものは？
伝統文化を教えてくれる方（グループ）の協力が不可欠。
楽器（太鼓・三味線など）を体験できればよい。

実際の活動…

祭り の由来を聞く ←―― 地元の方の話から先人たちの想いにせまる。

歌 の 練 習

・ 歌詞に注目しよう。
　意味をかみしめて…。
・ 難しい言葉がわかるかな。

踊 り の 練 習

・ 踊りの振り付けに注目しよう。
　一つ一つの動作が何を表現しているのか。
・ なんだこのおもしろい格好？でもその格好に隠された意外な真実とは…？！

楽器（演奏）の練習

一つ一つの楽器の独特の音色・音階に注目しよう。
「音」の真髄に迫ろう！

今日は　お祭り　だ！！！

・ 祭りの衣裳を自分たちでつくってみてもおもしろいぞ。

・ さあ、思いきり歌って、踊って、楽器を演奏したらどんな気持ち？
　昔の人たちと同じ「想い」にふれることができたかな？

「祭り」ってそれに陶酔できればできるほどおもしろさが増してくるもの。
その「陶酔」の中から新たな感動が生まれるはず。

こんなことも…

「地域の年中行事にふれよう」

地域の人たちが一年を通じて、どのように人と人とがつながっているかを感じることができる行事を体験してみる。

伝承遊びに挑戦

めんこをしよう

こんな感動を…

- めんこ名人の技のすごさ。
- 友達と新しい自分たちだけのルールを作るおもしろさ。
- 無我夢中になる体験。

こんな場面で…

1　場所は？

風がなく、下がぬれていない場所ならどんな所でもよい。できれば土の地面が望ましい。

2　季節・時刻は？

通年

3　活動時間は？

短時間でもできるし、たっぷり時間があってもいい。

4　活動形態は？

3から5人ぐらいが活動に適している。
集まった者が全員でワイワイいいながら遊ぶのが楽しい。

5　準備するものは？

めんこ（既成品）　厚紙　セロテープ等

実際の活動…

めんこ名人登場

- やり方やルールについて話を聞く。
- 名人の技を見る。

↓

めんこをつくろう

- 作り方を聞く。
  (形の大きさ、材質等について)
- 出来上がったら、両面に自分の好きな絵を描く。それで、自分のめんこが分かるようにする。

↓

めんこで武者修業

- いろんな場所や違うメンバーと遊ぶ。
- いつでもどこでもできるので、空いた時間に楽しんでもよい。
- どうすれば強くなるか工夫する。

ポイント

- 空気が入らないように、めんこをそらす。
- あてる角度を考える。
- めんこにロウを塗ったり、セロテープをはったりして細工をする。

↓

めんこの遊び方を工夫する

- ルールを考える。
- めんこの取り方をかえてみる。
- 遊び場所をかえてみる。

こんなことも…

「ビー玉遊び」「くぎさし」

「エスケン」「おじゃみ」

「缶けり」

同じ釜の飯

こんな感動を…

- クラスのみんなで協力して作る喜びを実感する。
- 同じものをみんなで一緒にワイワイ言いながら食べることの楽しさを味わう。

こんな場面で…

1　場所は？
水のきれいな谷川で、やわらかい日差しのもとやさしい風が吹き抜ける緑の多いところ。

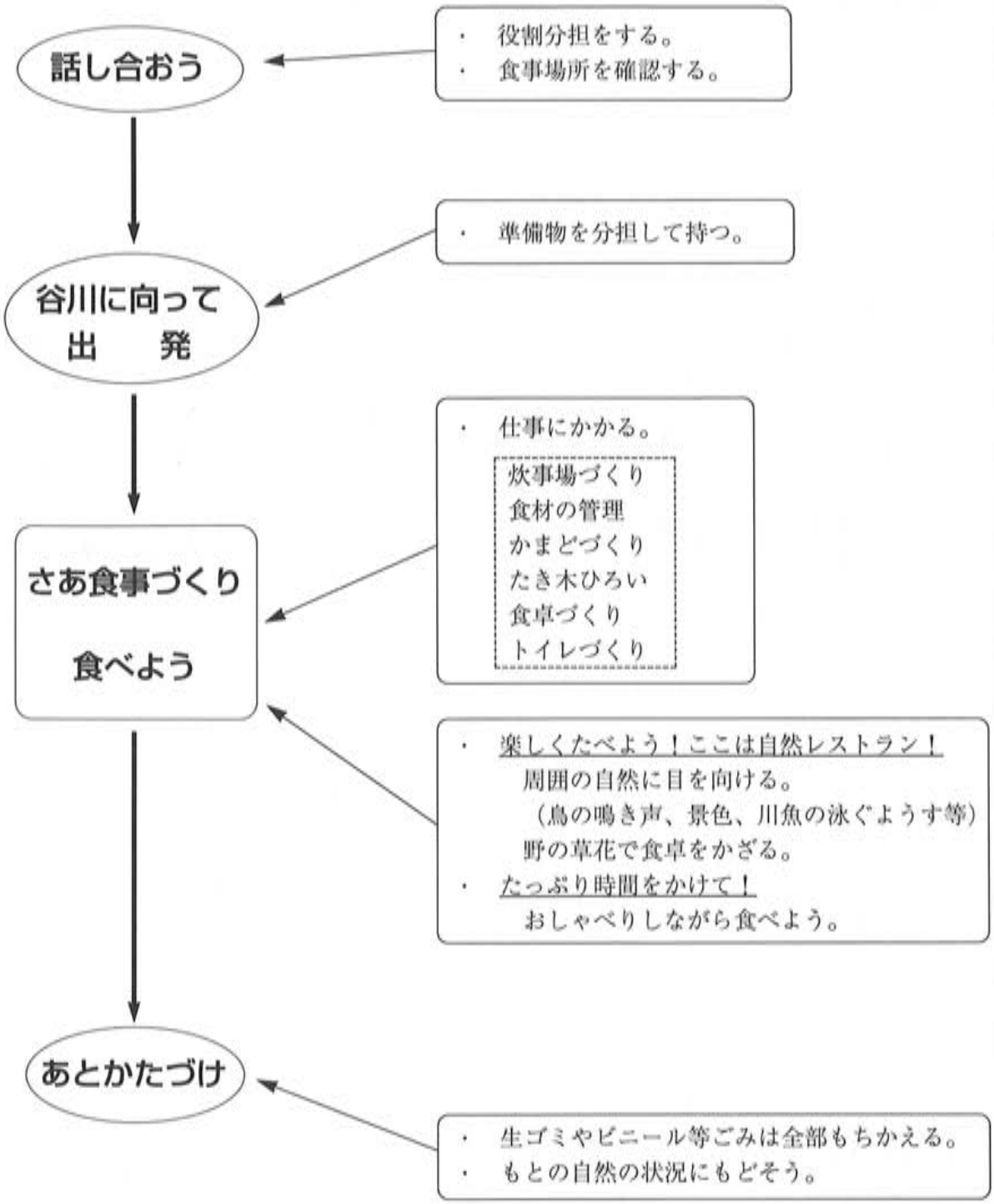
2　季節・時刻は？
春から秋にかけて。

3　活動時間は？
朝から一日かけてじっくりと。

4　活動形態は？
クラス全員が一つになって活動。

5　準備するものは？
食材　大鍋　野外炊事セット等

実際の活動…



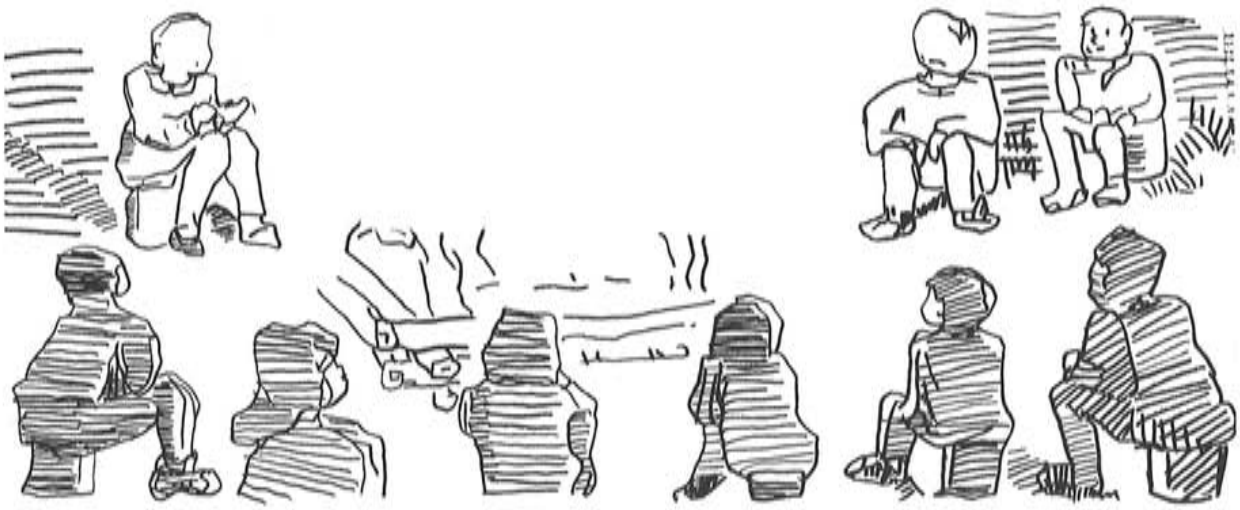
こんなことも…

「今日はぼくがコック長」

野外炊事を何回か実施していく上で、その都度役割を変えていく。

聖なる火を囲んで

たまには静かに想いに
ふけりながら



こんな感動を…

- いつもとちがう友達に出会えたり、またはいつもと違う自分に出会う。
- 彼の昔、「火」は私たちにとってとても大切なものだった。
  だからこそ「火」は「神様」にもたとえられたのだ。そんな聖なる「火」を囲んで静かに想いを語り合う。

こんな場面で…

1　場所は？
星空を見上げることができる広場。「火」を囲むことができればよい。

2　季節・時刻は？
寒すぎるとよくない。陽がどっぷりと沈んだころに集まる。

3　活動時間は？
長すぎるとよくない。90分くらいまでをめどにする。

4　活動形態は？
グループ単位かクラス単位

5　準備するものは？
薪　トーチ棒等

6　その他
通常のキャンプファイヤーみたいに高い壇を組む必要はない。
最後の夜に行うのが望ましい。

実際の活動…

ファイヤー場に入場

・　しばらくの静寂を全身で感じ、そして、静かに入場する。
・　心地よい緊張感にもひたってみる。

はじめの歌　「遠き山に日は落ちて」

点　火

・　次第に大きくなる「火」の燃え上がる様を見つめよう。
「火の力」を感じるはず。
・　彼の昔、「火」は私たちに何を与えてくれたのだろうか。何を教えてくれたのだろうか。
・　なんていろいろと考えながら。
・　それぞれの想いにふけりながら。

・　指導者は、参加者の気持ちをやわらげ、話しやすいムードづくりに留意する。

自分の想いを語り合おう

・　日頃、ゆっくりと自分自身を見つめる時間なんてあまりない。
・　友だちのことをじっくりと考えることなんてあまりない。

自分の想いを自分自身の口から

・　それはつぶやきかも知れない。それは叫びかも知れない。
・　友は語る。そして自分は語る。

やっぱり人間って素晴らしい。

みんなで歌おう。

「今日の日はさようなら」

・　今日の想いは大切に。
そして、友だちを大切に。

こんなことも…

「テントサイドでアットホームな夜を」

小グループで焚火を囲み、夕食を食べながら語り合う。

歌は友達

みんなで歌おう

こんな感動を…

・　みんなで歌を歌うことにより心と心の響き合いを感じる。

こんな場面で…

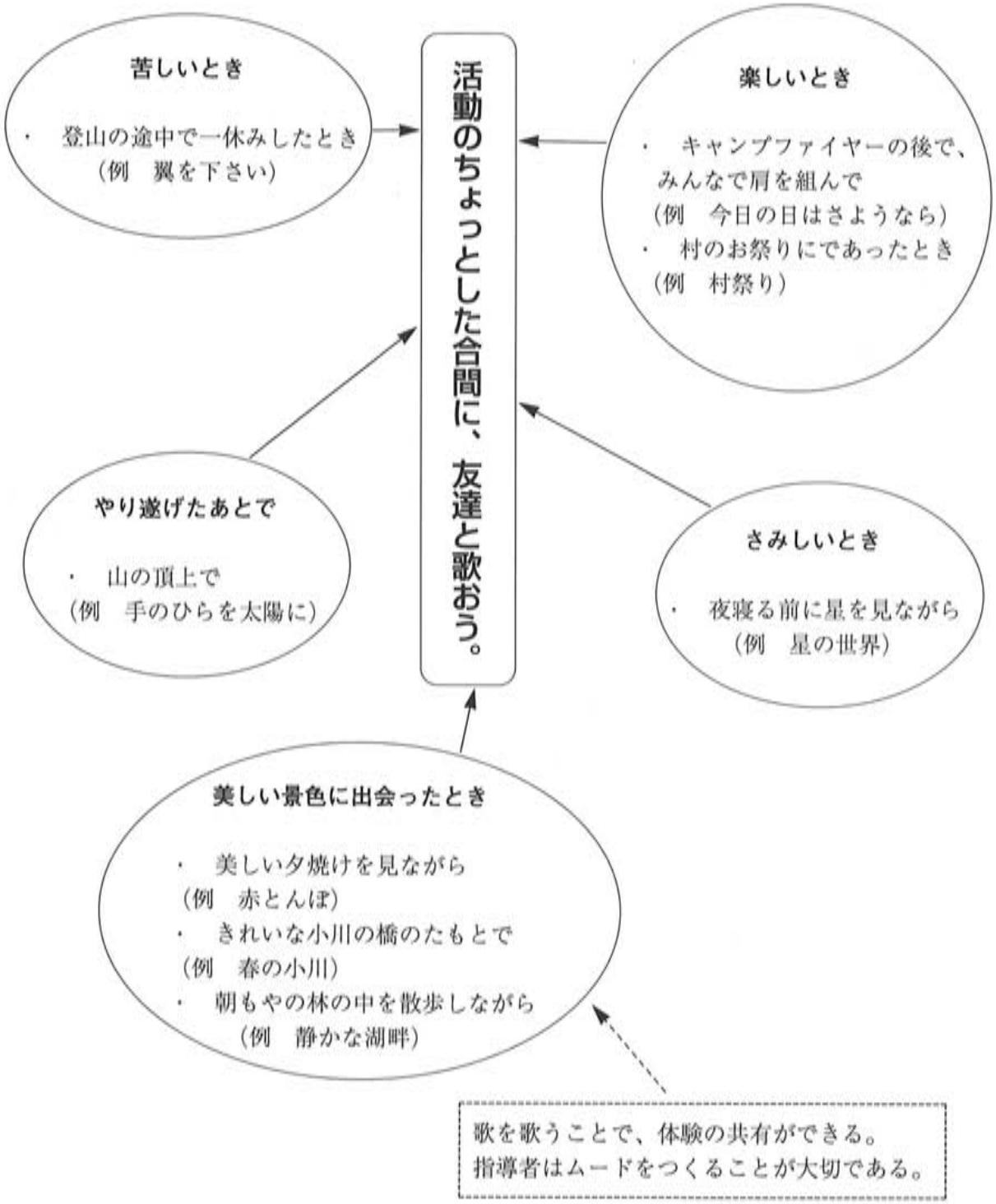
1　場所は？
どこでも

2　季節・時刻は？
いつでも活動の空いた時間、ゆったりとした雰囲気の中で。

3　時間は？
10分程度

4　活動形態は？
グループ単位かクラス単位

実際の活動…



こんなことも…

「漁火を見ながら笛を吹こう」

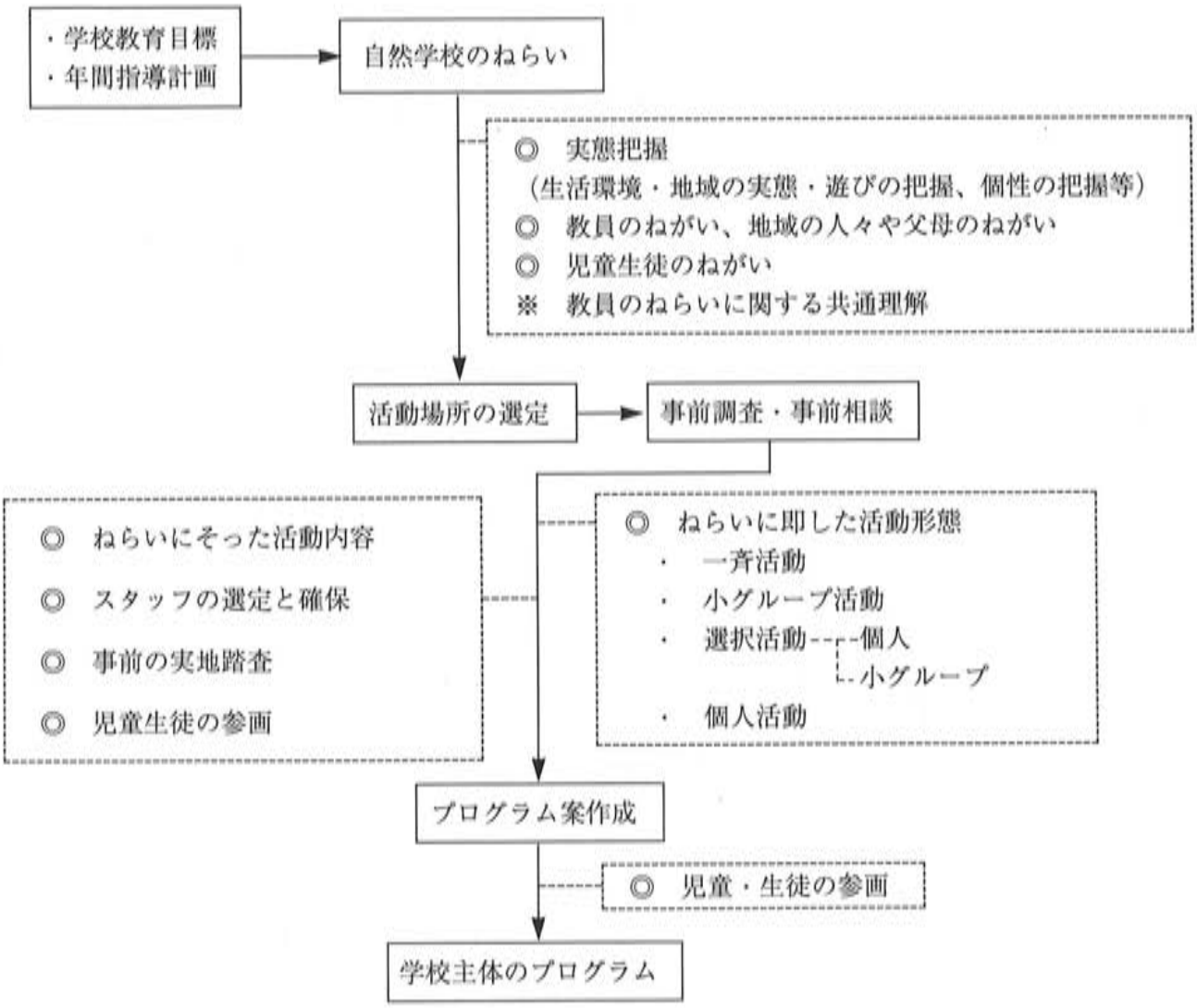
夜の海辺で全員で笛を吹く

Ⅲ　5泊6日のプログラム作成について

1　プログラム作成の視点

(1)　年間指導計画に位置づけているか。
(2)　自然学校のねらいが明確であるか。
(3)　子どもにとって本当にゆとりのあるプログラムになっているか。
(4)　子どもたちの実態に即したプログラムになっているか。
(5)　一人一人が生かされるようなプログラムになっているか。
(6)　生きる力（新しい学力観）を育むプログラムになっているか。
(7)　プログラムが事後の学校生活に役立ったプログラムになっているか。
(8)　健康安全に配慮したプログラムになっているか。

2　プログラム作成の手順



3　次年度に向けて（評価）

○　ねらいが達成できたか。
○　課題はなにか。
○　次年度への引継ぎを確実に。

感動に視点をあてた５泊６日のプログラム例

自然とのふれあいを中心とした５泊６日のプログラム例　その１

自然の生きものや自然の美しさにふれることで、自然に対する興味・関心を高め自然への畏敬の念を育てる。

	午　前	午　後	夜	留　意　点
一日目		自然発見！（班別活動） ・施設巡り		・どんな小さなことでも気づいたことをメモさせる。
二日目	クモ博士になろう（班別活動） ・クモの巣の張り方を観察する ・クモの巣をゆらしたり音叉を近づけたりする ・クモが虫を捕るところを見る			・時刻を変えて観察したり、クモの巣を壊しておき、巣の張り方を観察させる。 ・クモ以外の他の生き物を観察させるのもよい。
三日目	日の出ハイク（班別活動） ・夜明け前に出発し日の出を見る ・時刻によって景色等自然の様子が変化することを感じる	休　憩		・午後はゆっくり休憩させる。 ・健康チェックをする。
四日目	森で遊ぼう（個人選択活動） ・森の中で自分に興味のあることに挑戦する ・ターザンごっこ ・木登り ・沢の生き物みつけ ・ストレートハイク等			・自然の中で思いっきり体を動かす楽しさを体験させる。 ・自然の不思議さやおもしろさ等を発見させる。 ・自然物を使った工作につなげる場合は材料を集めさせる。
五日目	手作りフィッシング（班別活動） ・手作りの竿で魚を釣る ・釣り竿づくり ・餌あつめ ・釣り場の選定			・事前に活動する川の状況を把握しておく。 ・各自で竿を作らせる。 ・魚がどんなところにすんでいるかわからせる。 ・釣り名人がいれば名人に教えてもらうのもよい。 ・必要でない魚は川に返し、釣り場をそうじさせる。
六日目	自然にかえそう（班別活動） ・使った場所をきれいにしよう			

自然とのふれあいを中心とした5泊6日のプログラム例　その2

山と海の自然を満喫することで、自然の雄大さや厳しさを味わう。

	午　前	午　後	夜	留　意　点
一日目		森で遊ぼう（個人選択活動） ・木登り ・ストレートハイク ・ターザンごっこ		・興味のあることを見つけて遊ばせる。
二日目	午後の準備	夜行性動物になろう（班別活動）		・午前中に十分休憩させる。 ・夜の生き物を探したり、夜の暗やみを体験し、昼との違いを五感で感じさせる。
		・夜の生き物探し ・暗やみの体験 ・夜の森で過ごす		
三日目	休　憩	きのこを探そう（班別活動）		・午前中睡眠時間をとる。 ・個々の健康観察をする。 ・エリアを決めて班ごとにきのこを採集する。 ・きのこを食べる場合は市販のものにする。
		・きのこを探す ・集めたきのこを整理する ・きのこを食べる		
四日目	場所移動	海辺を楽しもう（班別活動）	夜の海辺を歩く（班別活動）	・波や危険な生き物に注意させる。 ・防波堤や磯辺等で夜の海を感じさせる。
		・磯辺の潮だまりで遊ぶ		
五日目	海の恵みに感謝しよう（班別活動）			・活動の後はその場所を元の自然に返す。
	・朝市での買い出し ・海辺でごはんを作る			
六日目	発表会			・新しく気がついたことを中心にまとめさせる。
	・山と海の自然の違いを発表する			

人とのふれあいを中心としたプログラム　その１

友達や名人とのふれあいを通して、協力する楽しさを感じたり、名人の生きざまに学んだりする。

	午前	午後	夜	留意点
一日目		友達と遊ぼう（班別活動） ・自然の中で友達と遊ぼう		
二日目	みんなで食事をつくろう（班別活動） ・谷川へ移動し食事をつくる			・役割分担を明らかにし協力して取り組ませる。 炊事場づくり 食材管理 かまどづくり たきぎ拾い 食卓つくり等 ・事前に場所の選定をする。 ・元の自然の状態にさせる。
三日目 四日目	名人の仕事にいどもう（個人選択活動） ・炭焼き ・林業体験 ・農家の仕事 ・漁師の仕事　等			・名人と事前に活動内容等について打ち合せをする。 ・児童生徒に仕事の内容を伝えておく。 ・一つの活動を３日かけてじっくりと体験させる。 ・活動に応じた服装を準備させる。 ・活動中も名人と連絡を密にする。
五日目			発　表　会	・体験を通して気づいたことや学んだことを各自でまとめ発表させる。
六日目	お世話になりました ・お礼の手紙を書く			・どんなところに感心したかという観点で書かせる。

人とのふれあいを中心とした５泊６日のプログラム例　その２

福祉施設の人や保育所の子どもたちとふれあうことで、人のために積極的に活動する態度を養う。

	午　前	午　後	夜	留　意　点
一日目		ねらいについて（班別活動）	ねらい発表（班別活動）	・自分のねらいをしっかり立てさせる。
		・一週間のねらいをたてる		
二日目	地域を歩こう（班別活動）			・ウォークラリー形式で取り組ませる。 保育所、福祉施設、スーパーマーケット等以後の活動場所をポイントに入れる。
	・訪問する施設を見つける ・施設の人と打ち合せする			
三日目	子どもと遊ぼう（班別活動）			・事前に活動内容や時間等を打ち合せておく。 ・保育所の子どもたちの気持ちを大切にして活動させる。
	・保育所の子どもと遊ぶ ・お遊戯をする ・弁当パーティー ・おもちゃを作る			
四日目	福祉施設に行こう（班別活動）			・事前に活動内容や時間等を打ち合せておく。
	・授産体験 ・車椅子体験 ・ボランティア体験			
五日目	つくろう　料理！（一斉活動）			・材料買い出しから片付けまで全員で取り組ませ、協力してやりとげた喜びを味わわす。 ・メニューは子どもたちに考えさせる。
	・器材等の準備 ・食材の買い出し ・食事づくり ・片付け			
六日目	まとめをする			・体験したことをレポートや絵等の方法でまとめさせる。

地域とのふれあいを中心とした5泊6日のプログラム例

地域のお年寄りの話を聞いたり、地域の伝承遊びに挑戦することで心と心が通い合う体験を味わう。

	午　前	午　後	夜	留　意　点
一日目		地域を知ろう（班別選択活動） ・地域巡りウォーク		・班ごとに地域の特徴を知る課題に取り組ませる。
二日目	お年寄りを訪ねて（班別活動） ・昔の遊び ・昔の生活の様子 ・子どもの頃の学校や友達			・訪問家庭に事前に連絡する。 ・帰ってからお世話になった方にお礼の手紙を書く。
三日目	伝承遊びに挑戦しよう（個人選択活動） ・おじゃみ　・おはじき ・石蹴り　・めんこ ・竹馬　・こままわし　等			・できるだけ地域の人に遊び方を教えてもらうようにする。
四日目	地域の祭り体験（個人選択活動） ・地域の祭りの由来を聞く ・歌の練習 ・踊りの練習 ・楽器の練習			・地元の方の話を聞かせる。 ・歌詞や踊りに意味が込められていることを知らせる。 ・祭りが地域の連帯感を高めていることを感じさせる。
五日目	ふれあい地図づくり（班別活動） ・自然学校でお世話になった人から学んだことを地図に書き入れる			・生きざま等学んだことを書かせる。 ・お礼の手紙といっしょにふれあい地図を送らせる。
六日目	地域を清掃しよう			・子どもに活動内容を考えさせてもよい。

Ⅳ　自然学校の円滑な実施のために

自然学校は各学校が主体的に計画し実施するものであるが、昭和63年度の実施以来、県教育委員会では、自然学校をより充実したものとするためさまざまな施策を講じてきた。

平成９年度においては、下記のことがらについて、重点的にその徹底を図ってきた。

1　自然学校専門指導員等の配置及びその活動（平成９年度）

(1)　自然学校専門指導員の配置（29名）

ア　教育事務所等配置　（21名）→実施校の事前指導・現地指導・事後指導、プログラム指導、プログラム開発及び研究調査、指導員・救急員等の確保等

イ　県立拠点施設等配置（８名）→実施校の現地指導、受入れ準備、下見相談等

嬉野台生涯教育センター、母と子の島、西はりま天文台公園、兎和野高原野外教育センター

(2)　自然学校救急員の配置（８名）→実施校の健康安全指導・事前指導
子どもの病気・けが等の応急処置及び医療機関利用の判断
子どもの健康状況調査、施設内の安全指導等

奥猪名健康の郷、丹波林間学校、嬉野台生涯教育センター、母と子の島、西はりま天文台公園、三室高原青少年野外活動センター、兎和野高原野外教育センター、あけのべ自然学校

(3)　自然学校専門指導員の派遣

自然学校の実施に際し、教育事務所等配置の自然学校専門指導員を実施校の要請に応じて派遣する。

ア　指導内容　→事前指導、現地指導、事後指導

イ　派遣場所及び範囲→自然学校専門指導員が所属する教育事務所管内の県立及び市町組合立等施設及び所属する教育事務所管内の実施校

ウ　派遣申請　→派遣を希望する自然学校実施校は、市郡町組合教育委員会を通じて教育事務所長に「自然学校専門指導員派遣申請書」を提出する。

2　指導員等の確保方法

実施校が、実施計画に基づき、必要な人材の確保を所管の教育委員会に依頼すれば、当教育委員会は責任を持って教育事務所、野外活動施設と連携し、当該自然学校の円滑な実施が図られるようにする。

(1)　実施校が所管の教育委員会に確保を依頼する。

各実施校	←	確保依頼→ 確保通知	所管教育委員会 （教育委員会で確保する）

(2)　所管の教育委員会で確保が困難な場合は、管内の教育事務所に確保を依頼する。

所管教育委員会	確保依頼→ ←確保通知	所管教育事務所 （教育事務所で確保する）

(3)　野外活動施設等は、当該活動施設で確保できる人材（技術指導員、指導補助員、救急員）を学校、教育委員会、管内教育事務所に明示し、十分連携できるようにする。

3　事業費の補助について

(1)　市町が県の補助を受けて実施する自然学校に要する経費に対し、自然学校推進事業補助金交付要

綱の規定により補助金を交付する。

(2)　自然学校推進事業の実施にかかる補助申請及び経費の執行に当たっては、事業の趣旨を踏まえ主

体的に計画された各実施校のプログラム等が円滑に実施できるよう配慮する。

(平成９年度自然学校実施にかかる補助対象事業費限度額)

単位（千円）

クラス規模	1	2	3	4	5	6	7以上 (1c)増すごとに加算)	補助額は事業費の2/3
事　業　費	580	920	1,285	1,505	1,735	1,995	150	

自然学校に活用されている主な宿泊施設

区分	施設名	所在地		宿泊棟収容人数	連絡
国立	淡路青年の家	〒656-0543 三原郡南淡町阿万塩屋757-39		400	0799-55-0460
県立	南但馬自然学校	〒669-5134 朝来郡山東町迫間字原189		270	0796-76-4730
	総合体育館	〒663-8142 西宮市鳴尾浜1丁目16-8		約400	0798-43-1143
	奥猪名健康の郷	〒666-0201 川辺郡猪名川町杉生字奥山1-22		180	0727-69-0485
	丹波林間学校	〒669-2145 多紀郡今田町木津字前山191-2		100	今田町教育委員会 0795-97-3088
	嬉野台生涯教育センター	〒673-1415 加東郡社町下久米		480	0795-44-0711
	母と子の島	〒672-0100 飾磨郡家島町西島		217	07932-7-1508
	西はりま天文台公園	〒679-5313 佐用郡佐用町西河内407-2		128	0790-82-0598
	三室高原青少年野外活動センター	〒671-3232 宍粟郡千種町河内字真所		120	0790-76-2249
				千種町教育委員会 0790-76-2210	
	西播磨文化会館	〒679-4311 揖保郡新宮町宮内458-7		80	0791-75-3663
	兎和野高原野外教育センター	〒667-1336 美方郡村岡町宿字兎臥野791-1		184	0796-94-0211
	淡路文化会館	〒656-1521 津名郡一宮町多賀600		60	0799-85-1391
	但馬牧場公園	〒669-6813 美方郡温泉町丹土		69	0796-92-2641
市町組合立等	神戸市立自然の家	〒657-0101 神戸市灘区六甲山町中一里山1-1	六甲	208	078-891-0001
			摩耶	150	
	尼崎市立美方高原自然の家	〒667-1532 美方郡美方町新屋		260	0796-97-3601
	宝塚市立少年自然の家	〒669-1211 宝塚市大原野字松尾1		192	0797-91-0314
	伊丹市立野外活動センター	〒669-1412 三田市木器南下山1266-10		280	0795-69-1165
	三田市立野外活動センター	〒669-1401 三田市小柿949		160	0795-69-0388
	組合立丹波少年自然の家	〒669-3803 氷上郡青垣町西芦田イゲ32-2		320	0795-87-1633
	明石市立少年自然の家	〒674-0064 明石市大久保町江井島567		230	078-947-6181
	加古川市立少年自然の家、野外活動センター	〒675-0058 加古川市東神吉町天下原715-5		220	0794-32-5177
	西脇市立青年の家	〒677-0039 西脇市上比延町字伊勢山1434-8		200	0795-22-3703
	加美町立青年の家	〒679-1201 多可郡加美町豊部1840-53		100	0795-35-1572
	高砂市立青年の家	〒676-0031 高砂市高砂町向島町1710		106	0794-43-2155
	姫路市立藤ノ木山野外活動センター(少年自然の家)	〒679-2113 姫路市山田町南山田1354-4		320	0792-63-2997
	姫路市立引原野外活動センター	〒671-4204 宍粟郡波賀町引原307-3		326	0790-73-0453
	姫路市立梯野外活動センター	〒671-2513 宍粟郡山崎町梯313-13		420	0790-62-3121
	波賀高砂の家	〒671-4213 宍粟郡波賀町原625		270	0790-75-2355
	財団法人峰山高原簡易保険総合レクセンター	〒679-3100 神崎郡大河内町大字小田字大畑881-146		336	0790-34-1515
	あけのべ自然学校	〒667-0435 養父郡大屋町和田		225	0796-68-0258
	西宮市立山東少年自然の家	〒669-5125 朝来郡山東町粟鹿字畑田2179		260	0796-76-4100
	竹野海岸国民休暇村	〒669-6201 城崎郡竹野町竹野		157	0796-47-1511
	豊岡簡易保険センター	〒668-0000 豊岡市小島字荷柄1163		90	0796-28-3375

自然学校で活用されている主な県立施設

施設名	所在地	主な活動	連絡
防災科学館	〒651-1102 神戸市北区山田町下谷上字中一里山15-13	・地震体験 ・落雷や津波の実験	078-741-6533
海洋体育館	〒659-0032 芦屋市浜風町30-2	・ヨット、カヌー、ボート	0797-32-2255
人と自然の博物館	〒669-1546 三田市弥生が丘6丁目	・屋内展示の自然史めぐり ・情報センターの活用	0795-59-2001
丹波年輪の里	〒669-3312 氷上郡柏原町田路102-3	・クラフト創作を主とした木の文化にふれる活動	0795-73-0725
フラワーセンター	〒679-0106 加西市豊倉町飯森1282-1	・四季の花を楽しむ活動 ・野外広場での活動	0790-47-1182
播磨中央公園	〒679-0212 加東郡滝野町下滝野	・マウンテンバイク等各種スポーツ活動	0795-48-5289
三木山森林公園	〒673-0433 三木市福井字三木山2465-1	・森林体験・園内散策 ・アスレチック	0794-83-6100
東はりま日時計の丘公園	〒679-0312 多可郡黒田庄町門柳871-14	・燻製づくり体験 ・ホタルの観察	0795-28-4851
歴史博物館	〒670-0012 姫路市本町68	・兵庫県の歴史学習 ・姫路城に関する学習	0792-88-9011
昆虫館	〒679-5227 佐用郡南光町船越617	・生きた昆虫の生態観察 ・昆虫の標本見学	0790-77-0103
赤穂海浜公園	〒678-0215 赤穂市御崎1857-5	・塩づくり体験 ・カヌー、カヤック	07914-5-0800
播磨科学公園都市オプトピア(PR館)	〒678-1200 赤穂郡上郡町金出土1499-3	・播磨科学公園都市の見学	07915-8-1155
水産試験場内水面漁業センター	〒679-3442 朝来郡朝来町田路	・淡水魚の生態観察 ・魚釣り体験	0796-78-1701
北部農業技術センター	〒669-5254 朝来郡和田山町安井123	・農産物の加工体験 ・牛の見学	0796-74-1230
林業試験場緑化センター	〒669-5114 朝来郡山東町野間	・森林体験	0796-76-2257
円山川公苑	〒668-0000 豊岡市小島字荷柄1163	・カッター、カヌー、カヤック ・スケート	0796-28-3085
但馬牧場公園	〒669-6813 美方郡温泉町丹土	・但馬牛等動物とのふれあい ・農産物の加工体験	0796-92-2641
淡路島公園	〒656-2401 津名郡淡路町岩屋	・園内散策 ・アスレチック	0799-72-5366
淡路ファームパーク	〒656-0402 三原郡三原町八木養宜上1396	・動物とのふれあい	0799-42-2440
淡路ふれあい公園	〒656-0122 三原郡緑町広田広田1473-12	・野外での遊び ・野鳥観察	0799-45-1735

但州丸（香住高等学校）	〒669-6563 城崎郡香住町矢田40-1	・実習船但州丸の見学及び乗船	0796-36-1181

平成９年度自然学校推進事業補助金交付要綱

（通則）

第１条　自然学校推進事業補助金（以下「補助金」という。）の交付については、この要綱の定めるところによる。

（交付の目的）

第２条　この要綱は、市町（市町の組合含む。以下同じ。）が、心身ともに調和のとれた健全な児童の育成を図るため、豊かな自然環境の中での集団宿泊生活を通じて自然とのふれ合いや人とのふれ合いを体験する学校教育活動を推進する自然学校推進事業（以下「補助事業」という。）を実施するために必要な経費の一部を補助し、もって学校教育の充実に資することを目的とする。

（交付の対象及び補助金の額等）

第３条　県は、市町に対して、補助事業に要する経費について、予算の範囲内で別表に定める補助対象経費及び学級規模の事業費限度額により、その３分の２以内の額を補助するものとする。

ただし、自然教室推進事業補助金（以下「国庫補助金」という。）を受けて補助事業を実施する場合は、前記の合計額から国庫補助金相当額を減じた額とする。

（申請手続）

第４条　補助金の交付を受けようとする市町は、交付申請書（様式第１号）に収支予算書（様式第２号）を添えて県教育長に対しその定める時期までに提出しなければならない。

（交付決定）

第５条　県教育長は、前条の申請書の提出があったときは、審査の上、補助金を交付すべきものと認めたときは、交付の決定を行い、交付決定通知書（様式第３号）により通知するものとする。

（申請の取下げ）

第６条　市町は、前条の通知を受領した場合において交付決定の内容又はこれに付した条件について不服があるときは、交付決定の通知を受領した日から10日以内に補助金の交付の申請を取り下げることができる。

２　前項の申請の取下げがあったときは、当該申請に係る交付決定はなかったものとみなす。

（補助事業の遂行）

第７条　補助金の交付決定を受けた市町（以下「補助事業者」という。）は、補助事業を遂行するために契約を締結し、又は支払いを行う場合には、法令の定めに従い、公正かつ最小の費用で最大の効果をあげ得るよう経費の効果的使用に務めなければならない。

（計画変更の承認）

第８条　補助事業者は、補助事業の内容を変更しようとする場合には、事業計画変更承認申請書（様式第４号）を提出し、その承認を受けなければならない。

ただし、補助金の額に増減をきたすことなく、かつ、実施校数又は児童数の20％を超える変更以外の変更については、この限りでない。

２　県教育長は、前項の承認をする場合においては、必要に応じて交付決定の内容を変更し、又は条件を付することができる。

（事業の中止又は廃止）

第９条　補助事業者は、補助事業を中止又は廃止しようとするときは、事業中止（廃止）等を記載した承認申請書（様式第５号）を県教育長に提出し、その承認を受けなければならない。

（交付決定額の変更）

第10条　補助事業者は、第５条の規定により通知された金額（以下「交付決定額」という。）の変更を受けようとするときは、県教育長が指定する期日までに補助金変更交付申請書（様式第６号）を提出しなければならない。

２　県教育長は、前項の申請があったときは、第５条の規定に準じ決定を行い、補助金交付決定変更通知書（様式第７号）により通知するものとする。

（事業遅延の届出）

第11条　補助事業者は、補助事業が予定の期間内に完了する見込みがないとき、又は事業の遂行が困難となった場合には、速やかにその旨を記載した報告書を県教育長に提出し、その指示を受けなければならない。

（状況報告）

第12条　補助事業者は、補助事業の遂行及び支出状況について、県教育長が指定する日までに、状況報告書（様式第８号）を県教育長に提出しなければならない。

（実績報告）

第13条　補助事業者は、補助事業が完了したとき（廃止の承認を受けたときを含む。）は、その日から起算して30日を経過した日又は補助金の交付決定のあった年度の３月31日のいずれか早い日までに実績報告書（様式第９号）に収支決算書（様式第10号）を添えて県教育長に提出しなければならない。

（補助金額の確定等）

第14条　県教育長は、前条の報告を受けた場合においては、報告書等の審査及び必要に応じて行う現地調査等により、その報告に係る補助事業の実施結果が補助金の交付の決定の内容（第８条に基づく承認をした場合は、その承認された内容）及びこれに付した条件に適合するものであるかを調査し適合すると認めたときは、交付すべき補助金の額を確定し、補助事業者に補助金額確定通知書（様式第11号）により通知するものとする。

２　県教育長は、確定した補助金の額が、交付決定（第10条第２項の規定により変更された場合にあっては、同項の規定により通知された金額をいう。）と同額であるときは、前項の規定による通知を省略することができる。

（補助金の交付等）

第15条　補助金は、前条第１項の額の確定後、補助事業者から提出される補助金請求書（様式第12号）により交付する。

２　県教育長は、必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず概算払いすることがある。

（交付決定の取り消し）

第16条　県教育長は、次に掲げる場合には、第５条の交付決定の全部又は一部を取り消すことができる。

(1)　第９条の補助事業の中止又は廃止の申請があったとき。

(2)　補助事業者が、この要綱の規定に違反したとき。

(3)　補助事業者が、補助金を補助事業以外の用途に使用したとき。

(4)　補助事業者が、補助事業に関して不正、怠慢、その他不適切な行為をしたとき。

(5) 交付の決定後生じた事情の変更等により、補助事業の全部又は一部を継続する必要がなくなったとき。

（補助金の返還）

第17条　県教育長は、前条の取消しをした場合において、当該取消しに係る部分に関する補助金が既に交付されているときは、期限を定めてその返還を命ずることができる。

2　県教育長は、第14条第１項の額の確定を行った場合において、既にその額を超える補助金が交付されているときは、期限を定めてその超える部分の補助金の返還を命ずることができる。

（加算金及び遅延利息）

第18条　補助事業者は、第16条１号から第３号までに定める事由により、前条第１項の規定による補助金の返還を命じられたときは、その命令に係る補助金の受領の日から納付の日までの日数に応じ、当該補助金の額につき年10.95％の割合で計算した加算金を県に納付しなければならない。

2　補助事業者は、補助金の返還を命じられ、これを期限までに納付しなかったときは、納付期限の翌日から納付の日までの日数に応じ、当該未納付額につき年10.95％の割合で計算した遅延利息を県に納付しなければならない。

（補助金の経理）

第19条　補助事業者は、補助事業について収支簿を備え、他の経理と区分して補助事業の収入額及び支出額を記載し、補助金の使途を明らかにしておかなければならない。

（補助金調査）

第20条　補助事業者は、当該補助金事業に係る歳入・歳出の予算書及び決算書における計上科目別計上金額を明らかにする調書を作成しておかなければならない。

（帳簿の備付け）

第21条　補助事業者は、当該補助事業に係る収入及び支出について証拠書類を整理し、当該補助事業が完了した年度の翌年度から５年間保存しなければならない。

（書類の経由）

第22条　この要綱の規定により県教育長に提出する書類の提出部数は２部とし、補助事業者（神戸市を除く。）は所轄の教育事務所を経由して、兵庫県教育委員会事務局義務教育課へ提出するものとする。

（補則）

第23条　この要綱の定めのない事項については、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律（昭和30年法律第179号）及び補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律施行令（昭和30年政令第255号）の規定によるものとする。

2　県教育長及び補助事業者は、国庫補助金の交付等に関し、国から指示がある場合は、その指示に従わなければならない。

附　則

1　県教育長が指定する中学校を対象として、市町が補助事業を実施する場合について、県教育長は、その補助対象経費について補助することがある。

この場合において、「児童」とあるのは「生徒」と読み替えて、この要綱を適用する。

別表

補助対象とする経費の範囲は、次のとおりとする。

1　技術指導謝金	現地で専門家、技術者による講義、技術等の指導を委嘱する場合の講師等に対する謝金とする。
2　指導補助員謝金	教員を助けて児童生徒の引率や指導を行う指導補助員を委嘱する場合の指導補助員に対する謝金とする。 指導補助員については、養護教諭の代替としての看護婦等を補助員（救急員）として委嘱する場合も補助対象とする。
3　交通費	児童生徒が学校から自然学校の場となる施設等への移動及び帰校に要する交通費（バス借上料を含む）とする。 また、宿泊地から他の場所へ見学等で移動する場合の交通費についても対象とする。
4　施設使用料	自然学校に利用する施設・設備等の使用料とする。なお、食事代、見学料（観賞料）及び引率教員に係る施設使用料は含まれない。
5　消耗品費	自然学校の実施に必要な消耗品の購入に要する経費とする。 なお、教材・教具等で明らかに個人の所有に帰するものは含まない。
6　要保護・準要保護児童生徒にかかる食事代等に要する経費	要保護・準要保護児童生徒にかかる食事代、見学料、教材費などの負担に要する経費とする。

平成９年度兵庫県立南但馬自然学校プログラム研究委員会委員

（順不同）

分　　野	氏　　名	所　　属　・　職　　名
学識経験者	山　田　　誠	神戸市外国語大学教授（委員長）
	山　田　卓　三	兵庫教育大学教授（副委員長）
	人　見　修　一	兵庫教育文化研究所事務局長
野外活動施設関係者	北　村　邦　彦	県立兎和野高原野外教育センター 自然学校専門指導員（駐在指導担当）
	綿　巻　秀　樹	県立嬉野台生涯教育センター 自然学校専門指導員（駐在指導担当）
自然学校専門指導員	芦　田　　哲	但馬教育事務所（自然学校推進担当）
	江　上　佳　宏	東播磨教育事務所 自然学校専門指導員（派遣指導担当）
	簗　田　憲　男	西播磨教育事務所 自然学校専門指導員（派遣指導担当）
関係行政機関関係者	笠　原　清　次	県教育委員会義務教育課指導主事（自然学校推進担当）
自然学校実施校教員	松　野　雅　章	大屋町立大屋小学校教頭
	吉　見　典　彦	青垣町立佐治小学校教諭
	濱　田　篤　則	宝塚市立南ひばりガ丘中学校教諭
県立南但馬自然学校	北　本　重　安	県立南但馬自然学校指導主事
	門　脇　明　好	県立南但馬自然学校指導主事
	小　谷　一　良	県立南但馬自然学校指導主事
	福　本　千　歳	県立南但馬自然学校指導主事

自然学校専門指導員	藤　原　　尚	但馬教育事務所 自然学校専門指導員（県立南但馬自然学校期間駐在担当）
	野々口　竜　己	丹有教育事務所 自然学校専門指導員（県立南但馬自然学校期間駐在担当）

平成9年度
自然・人・地域に学ぶ
平成10年3月発行

発　行　兵庫県立南但馬自然学校
〒669-5134
兵庫県朝来郡山東町迫間字原189
☎0796-76-4731
印　刷　㈱北　星　社

●http：//www.hyogo-edu.yashiro.hyogo.jp/~shizen-bo/

R20
古紙配合率20%再生紙を使用しています
9枚 Ⓣ 1-024A4